

九州産業大学学則

第1章 総則

(建学の理想)

第1条 九州産業大学（以下「本学」という。）は、教育基本法に則り、学校教育法の定めるところに従って大学教育を施し学術の理論及び応用を研究、教授すると共に、豊かな教養と深い専門知識をそなえた堅実有為の社会的人格を育成することを目的とし、建学の理想「産学一如」の実現を目指して教育・研究体制を整備している。「産学一如」とは、すなわち、「産」（産業界）と「学」（大学）とを連携させ、「学」を「産」に活かす教育（理論と実践の統合）を志向することである。

(人材養成及び教育研究上の目的)

第1条の2 本学は、第1条に定める建学の理想のもと、広く産業界の期待に応えられる“実践力”“熱意”“豊かな人間性”を持った人材を輩出すべく、深い教養に裏打ちされたグローバル化に対応できる心身共に健全な人間教育の実践に努めている。

2 本学における人材養成に関する目的およびその他の教育研究上の目的は、学部、学科ごとに別表甲に定める。

(自己点検及び評価)

第2条 本学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（以下「教育研究等」という。）の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価を行うに当たっては、同項の趣旨に即し適切な項目を設定するとともに、適当な体制を整えて行うものとする。

3 本学は、第1項の措置に加え、教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

4 点検及び評価に関し必要な事項は、別に定める。

(情報の公表)

第2条の2 本学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。

- (1) 本学の教育研究上の目的に関すること。
- (2) 教育研究上の基本組織に関すること。
- (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
- (4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- (5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- (6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
- (7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。
- (8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- (9) 本学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

2 本学は、前項各号に掲げる事項のほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するものとする。

3 第一項の規定による情報の公表は、刊行物への掲載、インターネットの利用により広く周知を図るものとする。

第2条の3 削除

第2章 修業年限、在学年限、学年、学期及び休業日

(修業年限)

第3条 本学の修業年限は、4年とする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第3条の2 本学は、前条の規定にかかわらず、学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業すること（以下「長期履修」という。）を希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 長期履修に関し必要な事項は、別に定める。

(在学年限)

第4条 学生は、8年を超えて在学することはできない。

2 前項の規定にかかわらず、編入学又は再入学を許可された学生は、修業すべき年数の2倍を超えて在学することはできない。

(学年及び1年間の授業期間)

第5条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

2 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(学期)

第6条 学年を分けて次の2学期とする。

前学期 4月1日 から 9月15日まで

後学期 9月16日 から 翌年3月31日まで

2 学長は、前項に定める学期の開始日と終了日を臨時に変更することができる。

(休業日)

第7条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3) 開学記念日

(4) 春季休業 4月1日 から 4月6日まで

(5) 夏季休業 7月28日 から 9月15日まで

(6) 冬季休業 12月24日 から 翌年1月7日まで

2 学長は、必要がある場合には休業日を臨時に変更ことができ、また、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 学部及び学科

(学部及び学科)

第8条 本学に、次の学部及び学科を置く。

経済学部	経済学科(昼夜開講制) 昼間主コース 夜間主コース
商学部第一部	商学科 観光産業学科
商学部第二部	商学科
経営学部	国際経営学科 産業経営学科
工学部	機械工学科 電気情報工学科 物質生命化学科 都市基盤デザイン工学科 建築学科 住居・インテリア設計学科
芸術学部	バイオロボティクス学科 芸術表現学科 写真・映像メディア学科 ビジュアルデザイン学科 生活環境デザイン学科 ソーシャルデザイン学科
国際文化学部	国際文化学科 日本文化学科
情報科学部	臨床心理学科 情報科学科

(大学院)

第9条 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関し必要な事項は、別に定める。

第4章 図書館及び附属施設

(図書館)

第10条 本学に附属図書館を設ける。図書館は、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を収集管理し、職員及び学生の研究閲覧に供する。

2 図書館に関し必要な事項は、別に定める。

(附属施設)

第11条 本学に、次の附属施設を置く。

産業経営研究所
総合情報基盤センター
健康・スポーツ科学センター
国際交流センター
語学教育研究センター
基礎教育センター
美術館
学術研究推進機構
総合機器センター

2 附属施設に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 学部学科別入学定員、編入学定員及び収容定員

(入学定員、編入学定員及び収容定員)

第12条 本学の学部学科別入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員
経済学部	経済学科 昼間主コース	400	—	1,600
	夜間主コース	50	—	200
商学部第一部	商学科	400	—	1,600
	観光産業学科	150	15	630
商学部第二部	商学科	50	—	200
経営学部	国際経営学科	200	—	800
	産業経営学科	200	—	800
工学部	機械工学科	100	—	400
	電気情報工学科	100	—	400
	物質生命化学科	80	—	320
	都市基盤デザイン工学科	60	—	240
	建築学科	70	—	280
	住居・インテリア設計学科	60	—	240
芸術学部	バイオロボティクス学科	55	—	220
	芸術表現学科	65	—	260
	写真・映像メディア学科	50	—	200
	ビジュアルデザイン学科	75	—	300
	生活環境デザイン学科	70	—	280
国際文化学部	ソーシャルデザイン学科	40	—	160
	国際文化学科	80	16	352
	日本文化学科	60	12	264
情報科学部	臨床心理学科	60	12	264
	情報科学科	160	—	640

第6章 授業科目及び単位

(授業科目)

第13条 授業科目は、専門科目、基礎教育科目、外国語科目、留学生に関する科目、教科に関する科目、教職に関する科目、教科又は教職に関する科目、司書に関する科目、司書教諭に関する科目、博物館に関する科目、社会教育主事に関する科目及び大学院設置科目に分ける。

- 前項に規定する専門科目のうち各学部が指定する専門科目、基礎教育科目及び外国語科目をK S U基盤教育に関する授業科目とする。
- K S U基盤教育に関し、必要な事項は別に定める。
- K S U基盤教育に関する授業科目のうち、基礎教育科目、外国語科目の種類及び単位数は、別表第1のとおりとする。
- 授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に分ける。
- 各学部における専門科目、留学生に関する科目及び教職に関する科目の種類及び単位数は、別表第2から別表第9のとおりとする。
- 必要に応じて特殊講義を設けることができる。
- 自由科目として学生の習熟度を高めるための授業科目を設けることができる。

(授業の方法)

第13条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。

- 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。この授業科目については、学長が教授会の意見を聴取した上で、単位を与えることができる。
- 前項により与えることができる単位数は、第15条の卒業するために必要な単位数のうち、60単位を超えないものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第13条の3 本学は、授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第7章 寄附講座

(寄附講座)

第14条 本学は、企業、財団及び個人等からの寄附によって運営する講座（以下「寄附講座」という。）の授業科目を開設することができる。

- 寄附講座に関し必要な事項は、別に定める。

第8章 授業科目履修の方法

(卒業要件)

第15条 本学の各学部を卒業するために必要な授業科目及び単位数は、別表第10のとおりとする。

(授業科目履修の方法及び登録の上限)

第16条 授業科目の履修及び単位の修得方法については、別に定める。

- 2 外国人留学生のために設ける留学生に関する科目の履修については、別に定める。
- 3 学生は、原則として各学期の初めに履修希望の授業科目を登録しなければならない。
- 4 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、一年間又は一学期に履修科目として登録できる単位数の上限は各学部において定めることができる。なお、単位数の上限は、別に定める。
- 5 各学部が定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。
- 6 既に単位を修得した授業科目は、再履修をすることができない。

(単位の基準)

第17条 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習及び実技のうち二以上の方法の併用により行う場合は、その組み合わせに応じ、前各号に規定する基準を考慮して単位数を定めるものとする。
- (4) 前各号の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究及び卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位数を定めるものとする。

第9章 授業科目修了の認定

(単位の認定)

第18条 授業科目修了の認定は、筆記又は口述による試験その他適当な方法による。ただし、演習、実験、実習及び実技等については平常の成績により認定することができる。

- 2 授業科目修了の認定は、原則として学年末に行う。ただし、前学期で終了する授業科目については、前学期末に行うことができる。
- 3 試験の成績は、秀、優、良、可及び不可で表し、秀、優、良及び可を合格とし、合格した授業科目には所定の単位を与える。

(GPA)

第18条の2 学業の成績評価基準としてグレード・ポイント・アベレージ (Grade Point Average 以下「GPA」という。)を用いることができる。

- 2 GPAについては、各学部の授業科目履修規程に定めるところによる。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第19条 学長が、教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で、教授会の意見を聴取した上で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合にも準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第20条 学長が、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の意見を聴取した上で、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(ボランティア活動等の実践学修)

第20条の2 学長が、教育上有益と認めるときは、ボランティア活動等の実践学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の意見を聴取した上で、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、第19条第1項、第2項及び前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 3 ボランティア活動等の実践学修に関し必要な事項は、別に定める。

第10章 卒業及び学位の授与

(卒業及び学位の授与)

第21条 本学に4年以上在学し、第15条に規定する授業科目につき定められた単位を修得した者に対して、卒業を認め、学長が学士の学位を授与する。

- 2 本学に4年以上在学し、年度の前期において第15条に規定する授業科目につき定められた単位数を修得した者に対して、9月卒業を認め、学長が学士の学位を授与する。
- 3 文部科学大臣の定めるところにより、本学に3年以上在学し、第15条に規定する授業科目につき定められた単位数を優秀な成績で修得した者に対して、第1項の規定にかかわらず、別に定める規程に基づき3年以上の在学で卒業を認め、学

長が学士の学位を授与することができる。
4 学位の授与については、別に定める。

第11章 教育職員免許状等

(教育職員免許状)

第22条 本学に4年以上在学し、卒業するのに必要な単位を修得して学士の学位を得、かつ、第13条別表第1から別表第9に掲げる授業科目のうちから教育職員免許法及び同法施行規則に定める授業科目及び単位数を修得した者は、その修得した授業科目及び単位数に応じ、次の種類の教育職員免許状の授与を受けるための所要資格を得ることができる。

免許状の種類	免許教科の種類	免許状授与の所要資格を得させるための課程を置く学部学科	
高等学校教諭一種免許状	商業	経済学部 商学部第一部 商学部第二部 経営学部	経済学科 商学科 観光産業学科 商学科 国際経営学科 産業経営学科
高等学校教諭一種免許状	工業	工学部	機械工学科 電気情報工学科 物質生命化学科 都市基盤デザイン工学科 建築学科 住居・インテリア設計学科
中学校教諭一種免許状	社会	経済学部 商学部第一部 商学部第二部 国際文化学部	経済学科 商学科 観光産業学科 商学科 日本文化学科 臨床心理学科
高等学校教諭一種免許状	地理歴史	経済学部 商学部第一部 商学部第二部 国際文化学部	経済学科 商学科 観光産業学科 商学科 日本文化学科
高等学校教諭一種免許状	公民	経済学部 商学部第一部 商学部第二部 国際文化学部	経済学科 商学科 観光産業学科 商学科 日本文化学科 臨床心理学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	理科	工学部	物質生命化学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	数学	工学部 情報科学部	機械工学科 電気情報工学科 バイオロボティクス学科 情報科学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	美術	芸術学部	芸術表現学科 写真・映像メディア学科 ビジュアルデザイン学科 生活環境デザイン学科 ソーシャルデザイン学科
高等学校教諭一種免許状	工芸	芸術学部	芸術表現学科(メディア芸術専攻を除く) ビジュアルデザイン学科 生活環境デザイン学科 ソーシャルデザイン学科(情報デザイン専攻を除く)
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語	国際文化学部	国際文化学科 日本文化学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英語	国際文化学部	国際文化学科
高等学校教諭一種免許状	情報	経営学部 工学部 情報科学部	産業経営学科 電気情報工学科 バイオロボティクス学科 情報科学科

2 前項に定める資格を得るための授業科目の履修及び単位の修得方法については、別に定める。

(司書及び司書教諭)

第23条 図書館法第5条第1項第1号により司書の資格を得ようとする者及び学校図書館法第5条に規定する司書教諭の資格を得ようとする者については、別表第11の司書及び司書教諭に関する科目のうちから、所定の単位を修得すれば資格を得ることができる。

(学芸員)

第24条 博物館法第5条第1項第1号により学芸員の資格を得ようとする者については、別表第12の博物館に関する科目のうちから、所定の単位を修得すれば資格を得ることができる。

(社会教育主事)

第25条 社会教育法第9条の4第3号により社会教育主事の資格を得ようとする者については、別表第13の社会教育主事に関する科目のうちから、所定の単位を修得すれば資格を得ることができる。

(司書資格、司書教諭資格、学芸員資格及び社会教育主事資格の履修方法)

第26条 前3条に定める資格を得るための授業科目の履修及び単位の修得方法については、別に定める。

(日本語教員)

第26条の2 日本語教員の所要資格を得ようとする者については、別に定める日本語教員養成課程に関する授業科目のうちから、所定の単位を修得しなければならない。

2 前項に定める授業科目の履修方法及び単位の修得方法は、別に定める。

第12章 入学、編入学及び再入学

(入学の時期)

第27条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学の資格)

第28条 本学に入学の資格を有する者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者

(出願手続)

第29条 本学に入学を志願する者は、入学願書及び所定の書類に別表第15に掲げる入学検定料を添えて提出しなければならない。

(入学者の選抜)

第30条 入学は、学力検査等によって決定する。

2 入学者の選抜方法は、別に定める。

(入学手続及び入学許可)

第31条 入学者の選抜に基づき合格通知を受けた者は、指定の期日までに保証人連署の誓約書、保証書及びその他の書類を提出するとともに、別表第15に掲げる入学金及び修学費を納付しなければならない。

2 合格通知を受けた者のうち、学力検査等で特に優秀な成績を修めた者については、前項の規定にかかわらず、修学費の一部を免除することがある。

3 学長は、前2項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(入学前の既修得単位の認定)

第32条 学長が、教育上有益と認めるときは、第1年次に入学した学生が入学前に大学又は短期大学等において修得した授業科目の単位について、教授会の意見を聴取した上で、本学における授業科目の単位として認定することができる。

2 前項による単位の認定は、第19条第1項及び第2項、第20条第1項並びに第20条の2第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えない範囲で行うものとする。

(外国人留学生)

第33条 外国人で入学を志願する者については、特別の選考により入学を許可することがある。

(編入学)

第34条 学長は、本学に編入学を志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、入学を許可することがある。

2 本学に編入学の資格を有する者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 大学の2年次以上の修了者
 - (2) 短期大学を卒業した者
 - (3) 高等専門学校を卒業した者
 - (4) 外国において、学校教育における14年以上(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)の課程を修了した者で、本学において前3号に準ずると認められた者
 - (5) 学校教育法第132条に該当する者
 - (6) 学校教育法施行規則附則第7条に該当する者
- 3 編入学生の選抜方法及び編入学年次等の必要な事項は、別に定める。
- 4 編入学を許可された者の既に修得した単位の認定は、学長が教授会の意見を聴取した上で決定する。

(再入学)

- 第35条 学長は、本学の退学者又は除籍者が再入学を願い出たときは、第40条第1号により除籍された者を除き、教授会の意見を聴取した上で、再入学を許可することができる。
- 2 再入学を許可された者の既に修得した単位の認定及び再入学年次については、学長が教授会の意見を聴取した上で決定する。
- 3 再入学を願い出る者は、別表第15に掲げる再入学選考料を納付しなければならない。

第13章 休学、復学、長期欠席、退学、除籍、転学部、転学科、転主コース及び他大学受験

(休学)

- 第36条 休学しようとする者は、その事由を付した保証人連署の休学願を提出し、学長の許可を得て休学することができる。
- 2 休学は、次のとおりとする。
- (1) 前学期休学 前学期全期間の休学
 - (2) 後学期休学 後学期全期間の休学
 - (3) 通年休学 4月1日から翌年3月31日までの休学
- 3 休学期間は、通算して3年を超えることができない。
- 4 休学期間は、第4条に定める在学期間に算入しない。

(復学)

- 第37条 休学を許可された者は、休学期間満了を以て復学するものとする。
- 2 復学の時期は、学年の前学期又は後学期の始めとする。なお、通年休学を許可された者において、前学期末までに休学の事由が消滅したときは、保証人連署の復学願を提出し、学長の許可を得て後学期始めの復学を認めることがある。

(長期欠席)

- 第38条 病気又はやむを得ない事由により、1ヵ月以上で休学期間に満たない欠席をしようとする者は、その事由を付した保証人連署の長期欠席届を教務部長に提出しなければならない。
- 2 1ヵ月に満たない欠席の場合は、当該授業科目担当教員に届け出なければならない。
- 3 長期欠席の期間は、第4条に定める在学期間に算入する。

(退学)

- 第39条 退学しようとする者は、その事由を付した保証人連署の退学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

- 第40条 学長は、次の各号の一に該当する者を、教授会の意見を聴取した上で除籍する。
- (1) 第4条に定める在学年限を超える者
 - (2) 修学費を納付しない者
 - (3) 理由なく履修登録等在籍に要する手続きを履行しない者

(転学部及び転学科)

- 第41条 学長は、本学の他学部へ転学部することを志願する者の選考について関係各学部の教授会の意見を聴取した上で、許可することができる。
- 2 学長は、当該学部の他学科へ転学科することを志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、許可することができる。
- 3 転学部及び転学科に関し必要な事項は、別に定める。

(転主コース)

- 第42条 学長は、本学の昼間主コース及び夜間主コース(以下「主コース」という。)において、他の主コースへ転主コースすることを志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、許可することができる。
- 2 転主コースに関し必要な事項は、別に定める。

(他大学受験)

- 第43条 本学の学生が他大学の受験を出願するときは、他大学受験許可願を教務部長に提出しなければならない。
- 2 前項の手続を怠った場合は、出願先の大学に通告することができる。

第14章 留学

(交換留学)

第44条 本学は、本学と交流に係る協定を締結した外国の大学又は短期大学（以下「協定校」という。）と学生を相互に交換することができる。

2 前項の協定により交換する学生を交換留学生という。

（交換留学生の派遣）

第45条 学長は、前条の規定に基づき、教授会の意見を聴取した上で協定校に交換留学生を派遣することができる。

2 前項の交換留学生を派遣留学生といい、派遣期間は1年を限度とし、本学の修業年限に算入することができる。

3 派遣留学生に関し必要な事項は、別に定める。

（交換留学生の受入れ）

第46条 学長は、第44条の規定に基づき、教授会の意見を聴取した上で協定校が派遣する交換留学生を受け入れることができる。

2 前項の交換留学生を受入れ留学生といい、受入れ期間は1年を限度とする。

3 受入れ留学生に関し必要な事項は、別に定める。

（認定留学）

第47条 本学は、本学が教育上有益と認める学位授与権を有する外国の大学（以下「認定校」という。）に、学生が留学することを認めることがある。

2 前項の規定により留学する学生を認定留学生という。

（認定留学生）

第48条 学長は、前条の規定に基づき、学生が留学を志願したときは、教授会の意見を聴取した上で、認定校に留学をさせることができる。

2 認定留学生の留学期間は、1年を限度とし、本学の修業年限に算入することができる。

3 認定留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第15章 専攻科

（目的）

第49条 本学に、精深な程度において特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として、次の専攻科を置く。

芸術専攻科 美術専攻
デザイン専攻
写真専攻

（専攻科の入学資格）

第50条 専攻科に入学の資格を有する者は、大学を卒業した者又は次の各号の一に該当する者とする。

(1) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

(2) 文部科学大臣の指定した者

(3) その他当該専攻科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（専攻科の定員）

第51条 専攻科の定員は、次のとおりとする。

芸術専攻科 美術専攻 4名
デザイン専攻 6名
写真専攻 4名

（専攻科の修業年限）

第52条 専攻科の修業年限は、1ヵ年とする。

2 専攻科の学生は、2年を超えて在学することができない。

（専攻科の選考方法）

第53条 専攻科で修業することを志望するものに対しては選考の上、入学を許可する。

（専攻科の授業科目）

第54条 専攻科における授業科目は、別表第14に定める。

（専攻科の授業科目の履修方法）

第55条 専攻科の学生は、前条によって定められた授業科目を別に定める履修規程に従って履修しなければならない。

2 前項により授業科目を履修し、単位を修得すれば修了証書を授与する。

（専攻科の納付金）

第56条 専攻科の納付金は、別に定める。

第16章 修学費、受講料等及び手数料

（修学費等）

第57条 本学の学生は、指定された期日までに別表第15に掲げる修学費を納付しなければならない。

2 前項に定めるもののほか、必要に応じて別に定める受講料等及び手数料を納付するものとする。

(休学中の修学費)

第58条 休学を許可された者については、修学費のうち授業料を免除する。

(修学費の督促)

第59条 所定の期日までに修学費を納付しない者には督促し、納付しない場合は登学を停止する。登学停止後、なお納付しないときは、第40条の規定に基づき除籍する。

(納付金等の返付)

第60条 納付金等の返付の取り扱いについては、九州産業大学納付金及び手数料に関する規程の定めるところによる。

第17章 賞罰

(表彰)

第61条 学長は、学生として表彰に値する行為があった者を、教授会の意見を聴取した上で表彰することがある。

2 学長は、卒業に際して人物成績とも優秀な学生に対して、教授会の意見を聴取した上で表彰することがある。

(懲戒)

第62条 学長は、本学の諸規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者について、教授会の意見を聴取した上で懲戒することがある。

2 懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなくて出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に著しく反した者

第18章 職員組織

(学長、副学長及び部所長)

第63条 本学に学長、副学長、学部長、学生部長、教務部長、入試部長、キャリア支援センター所長、図書館長、産業経営研究所長、総合情報基盤センター所長、健康・スポーツ科学センター所長、国際交流センター所長、語学教育センター所長、基礎教育センター所長、美術館長、学術研究推進機構長及び総合機器センター所長を置く。

2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督するとともに、大学を代表する。

3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

4 学部長は、学長を助け、学部に関する校務をつかさどる。

5 学生部長は、学長を助け、学生部に関する事項をつかさどる。

6 教務部長は、学長を助け、各学部の教務に関する事項をつかさどる。

7 入試部長は、学長を助け、入学試験に関する事項をつかさどる。

8 キャリア支援センター所長は、学長を助け、学生のキャリア支援に関する事項をつかさどる。

9 図書館長は、学長を助け、図書館を統轄する。

10 産業経営研究所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

11 総合情報基盤センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

12 健康・スポーツ科学センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

13 国際交流センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

14 語学教育センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

15 基礎教育センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

16 美術館長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

17 学術研究推進機構長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

18 総合機器センター所長は、学長を助け、所管する事項をつかさどる。

(学科主任等)

第64条 各学部等に必要に応じて、学科主任等を置くことができる。

2 学科主任等は、学部長等を補佐する。

(教育職員)

第65条 本学に、教授、准教授、講師、助教及び助手を置く。

2 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

3 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

4 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

5 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

6 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

(事務局)

第66条 本学の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局に関し必要な事項は、別に定める。

(事務職員)

第67条 本学に、事務職員を置く。

2 事務職員に関し必要な事項は、別に定める。

(名誉教授)

第68条 本学に、名誉教授を置くことができる。

2 名誉教授に関し必要な事項は、別に定める。

第19章 教授会

(教授会)

第69条 本学の各学部に教授会を置く。

2 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
- (2) 学位の授与
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして別に定めるもの
- 3 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長(以下この項において「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 4 教授会の組織には、准教授その他の職員を加えることができる。
- 5 教授会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(センター教授会)

第70条 健康・スポーツ科学センター及び基礎教育センターに教授会(以下「センター教授会」という。)を置く。

2 センター教授会の構成、審議事項及び運営については、別に定める。

(学部長会議)

第70条の2 学部間の連携を図り、学長の決定を補佐する機関として、本学に学部長会議を置く。

2 学部長会議は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 健康・スポーツ科学センター所長
- (5) 基礎教育センター所長
- (6) 事務局長
- (7) その他学長が必要と認めた者
- 3 学部長会議は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
 - (1) 本学及び各学部等の教育研究に関連する重要事項
 - (2) 各学部間において連絡調整を要する事項
 - (3) その他学長が必要と認めた事項
- 4 会議は、学長が招集し、議長となる。
- 5 議長に事故あるときは、副学長がその職務を代行する。
- 6 会議は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、議長が必要と認めたときは、臨時に開催することができる。
- 7 会議は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 8 議長が必要と認めたときは、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。
- 9 議長は、会議の主な議題を、開催日の2日前までに総務課長を通じて、構成員に通知しなければならない。ただし、議長は必要に応じて議題を追加することができる。
- 10 総務課長は、会議の議事録を開催後1週間以内に議長に提出するとともに、構成員の閲覧に供しなければならない。

(協議会)

第71条 本学に協議会を置く。

2 協議会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 各学部から選出された各2名の教授
- (5) 学生部長
- (6) 教務部長
- (7) 入試部長
- (8) キャリア支援センター所長
- (9) 図書館長
- (10) 産業経営研究所長
- (11) 総合情報基盤センター所長

- (12) 健康・スポーツ科学センター所長
 - (13) 国際交流センター所長
 - (14) 事務局長
- 3 協議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
- (1) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項
 - (2) 学長、副学長、各学部長、学生部長、教務部長、入試部長、キャリア支援センター所長、図書館長、産業経営研究所長、総合情報基盤センター所長、健康・スポーツ科学センター所長及び国際交流センター所長の選考に関する事項
 - (3) 学部、学科及び研究所の設置又は廃止に関する事項
 - (4) 学生の厚生補導及びその身分に関する事項
 - (5) 国際交流に関する事項
 - (6) 教育及び研究に関する重要な組織の設置又は廃止に関する事項
 - (7) 全学的な行事に関する事項
 - (8) 学部その他の部局の連絡調整に関する事項
 - (9) その他大学運営に関する重要事項で学長が必要と認めた事項
- 4 協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

第20章 大学寮及び厚生保健

(大学寮)

- 第72条 本学に、大学寮を置く。
- 2 大学寮に関し必要な事項は、別に定める。

(保健管理)

- 第73条 本学に、職員及び学生の保健衛生を管理するために、医務室を設ける。

(医務職員)

- 第74条 医務室に、医務職員を置く。

(健康診断)

- 第75条 学生は、毎年定められた時期に健康診断を受けなければならない。

第21章 研究生及び科目等履修生

(研究生)

- 第76条 学長は、本学又は他大学の卒業生及びこれに準ずる者で、本学専任教員指導の下に特定の事項につき研究を志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、研究生として入学を許可することがある。
- 2 研究生は、別に定める納付金及び手数料を納付しなければならない。
- 3 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

- 第77条 学長は、本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目の履修を志願する者の選考について教授会の意見を聴取した上で、在学生の学修の妨げのない限り科目等履修生として許可することがある。
- 2 科目等履修生を出願できる者は、第28条の規定による入学の資格を有する者又は履修に関して協定を結んだ高等学校の生徒でその高等学校長の推薦を受けた者とする。
- 3 科目等履修生の単位認定については、第18条の規定による。
- 4 科目等履修生は、別に定める選考料及び科目受講料を納付しなければならない。
- 5 その他科目等履修生の出願に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生の期間)

- 第78条 科目等履修生を許可する期間は、通年又は前学期若しくは後学期とする。ただし、その都度願出により継続することができる。

(規則の遵守)

- 第79条 研究生及び科目等履修生は、本学が定める諸規則を遵守しなければならない。

第22章 特待生

(特待生)

- 第80条 学長は、人物、学業ともに優秀な学生の選考について教授会の意見を聴取した上で、特待生として認定することがある。
- 2 特待生に関し必要な事項は、別に定める。

第23章 公開講座

(公開講座)

- 第81条 本学では適時に公開講座を設けることがある。
- 2 公開講座に関し必要な事項は、別に定める。

第24章 改正

(学則の改正)

第82条 学則の改正は、学長が協議会の意見を聴取した上で理事会に付議する。

附 則

1. 本学則は昭和35年4月1日から施行する。
2. 本学則は昭和37年4月1日商学部産業経営学科設置に伴いこれを改正施行する。
3. 本学則は昭和38年4月1日商学部経済学科及び工学部、機械工学科、電気工学科、工業化学科設置に伴いこれを改正施行する。
4. 本学則は昭和39年4月1日工学部、土木工学科、建築学科及び商学部第二部商学科、経済学科設置に伴いこれを改正施行する。
5. 本学則は昭和41年4月1日芸術学部、美術学科、デザイン学科、写真学科設置に伴いこれを改正施行する。
6. 本学則旧第12条、第15条及び第21条の一部改正に伴う昭和41年度以前に入学した学生に対する取り扱いについては(注)書の部分のほかすべて従前の規程による。
7. 本学則は昭和43年4月1日経営学部産業経営学科設置、芸術学部学生入学定員変更、図書館司書及び司書教諭関係科目設置並びに各学部授業科目名称変更、条文整備に伴いこれを改正施行する。
8. 経営学部産業経営学科設置に伴い昭和42年度以前に入学した商学部産業経営学科の学生の取り扱いについてはすべて従前の規程による。
9. 本学則は昭和44年4月1日工学部学生定員変更に伴いこれを改正施行する。
10. 本学則は昭和45年4月1日各学部授業科目変更、条文整備に伴いこれを改正施行する。
11. 本学則は昭和46年4月1日商学部及び芸術学部学生入学定員変更に伴いこれを改正施行する。
12. 本学則は昭和47年4月1日芸術専攻科増設に伴いこれを改正施行する。
13. 本学則は昭和48年4月1日各学部授業科目変更、条文整備に伴いこれを改正施行する。
14. 本学則は昭和49年4月1日各学部授業科目変更に伴いこれを改正施行する。
15. 本学則は昭和50年4月1日各学部授業科目変更、条文整備に伴いこれを改正施行する。
16. 本学則は昭和51年4月1日商学部、経営学部、工学部及び芸術学部の学生入学定員変更に伴いこれを改正施行する。
17. 本学則は昭和52年4月1日経営学部卒業単位の変更、工学部土木工学科コース制の採用、図書館司書、司書教諭科目の整備及び博物館に関する科目の設置に伴いこれを改正施行する。
18. 本学則は昭和53年4月1日工学部・芸術学部授業科目変更に伴いこれを改正施行する。
19. 本学則は昭和54年4月1日経営学部産業経営学科コース制採用に伴いこれを改正施行する。
20. 本学則は昭和55年4月1日学校教育法施行規則の一部改正に伴う入学資格の変更、商学部第二部、工学部、芸術学部の授業科目の変更、及び社会教育主事に関する科目の設置に伴いこれを改正施行する。
21. 本学則は昭和56年4月1日経営学部国際経営学科設置並びに経営学部産業経営学科学生入学定員変更に伴いこれを改正施行する。

なお、本学則第9条の学生定員数にかかわらず経営学部は次のとおりとする。

学 部	学 科	昭和56年度		昭和57年度		昭和58年度	
		入学定員	定員総数	入学定員	定員総数	入学定員	定員総数
経営学部	国際経営学科	150	150	150	300	150	450
	産業経営学科	150	750	150	700	150	650

22. 本学則は昭和57年4月1日経営学部国際経営学科に教育職員免許状(商業)認定、並びに経営学部及び工学部授業科目変更に伴いこれを改正施行する。
23. 本学則は昭和58年4月1日商学部第二部、芸術学部授業科目の変更に伴いこれを改正施行する。
24. 本学則は昭和59年4月1日商学部授業科目の変更に伴いこれを改正施行する。
25. 本学則は昭和60年4月1日学則第34条の一部改正並びに芸術学部写真学科の授業科目名称変更、及び教職専門科目新設に伴いこれを改正施行する。
26. 本学則は昭和61年4月1日商学部経済学科の授業科目新設並びに芸術学部デザイン学科の授業科目名称変更に伴いこれを改正施行する。
27. 本学則は昭和62年4月1日経営学部並びに芸術学部授業科目新設・変更に伴いこれを改正施行する。
28. 本学則は昭和63年4月1日第15条別表6の一部変更及び商学部・経営学部の学科目新設・単位数変更、工学部工業化学科のコース廃止・新設又第2外国語の増設、社会教育主事の変更に伴いこれを改正施行する。
29. 本学則は、平成元年4月1日第13条別表1から5の一部変更及び工学部電気工学科のコース名称変更並びに第47条「専攻科」、第69条「教授会」、第70条「協議会」の一部改正に伴いこれを改正施行する。
30. 本学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第9条の規定にかかわらず、入学定員は平成3年度から平成11年度までの間は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科	入学定員	
商 学 部	経済学科	500
	商学科	500
商学部第二部	経済学科	150
	商学科	150

経営学部	国際経営学科	250
	産業経営学科	250
工学部	機械工学科	130
	電気工学科	150
	工業化学科	130
	土木工学科	130
	建築学科	150
芸術学部	美術学科	130
	デザイン学科	200
	写真学科	140

3 別表1及び別表2に掲げる授業科目のうち、高等学校教諭一種免許状「地理歴史」及び「公民」の授与をうけるために必要な科目の履修については、平成2年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成3年12月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成4年4月1日から施行する。

2 平成3年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条、第12条、第13条及び第14条の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

1 この学則は、平成5年4月1日から施行する。

2 平成4年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第11条、第12条、第13条、第14条、第18条及び第20条の規定の適用については、なお従前の例による。

3 商学部経済学科及び商学部第二部経済学科は、平成5年4月1日から学生募集を停止し、当該在学生の卒業を待つて廃止する。

4 第11条の規定にかかわらず、経済学部経済学科の入学定員は平成5年度から平成11年度までの間は次のとおりとする。

学部	学 科	平成5年度		平成6年度		平成7年度		平成8年度～平成11年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	500	500	500	1,000	500	1,500	500	2,000
	日間主コース								
	夜間主コース	150	150	150	300	150	450	150	600

附 則

1 この学則は、平成6年4月1日から施行する。

2 国際文化学部の収容定員については、第10条の規定にかかわらず、平成6年度から平成9年度までは、次のとおりとする。

学 部	学 科	平成6年度			平成7年度			平成8年度			平成9年度		
		入学定員	編入学定員	収容定員									
国際文化学部	国際文化学科	100	—	100	100	—	200	100	20	320	100	20	440
	地域文化学科	100	—	100	100	—	200	100	20	320	100	20	440

3 平成5年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条別表第2(一)(2)及び別表第3(一)(2)の規定の適用については、なお従前の例による。

4 平成4年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条別表第2(五)、別表第3(四)、別表第4(四)、別表第5(五)及び別表第6(四)の規定の適用については、なお従前の例による。

5 平成5年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第48条第1項の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

1 この学則は、平成7年4月1日から施行する。

2 平成6年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条別表第2(一)(2)、別表第3(一)(2)、別表第6(一)(3)及び第48条第1項の規定の適用については、なお従前の例による。

3 平成5年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条第3項別表第5(一)の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

1 この学則は、平成8年4月1日から施行する。

2 平成7年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条第3項別表第2(一)(2)、別表第3(一)(2)、別表第4(一)(1)(2)(二)(4)、別表第6(一)(3)及び学則第12条別表第8経営学部並びに第48条第1項の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成8年6月25日から施行する。
- 2 改正後の学則第39条の規定は、平成7年度に入学した学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成9年4月1日から施行する。
- 2 平成8年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第11条第3項別表第2(一)(2)、別表第3(一)(2)及び第52条第1項別表第13(3)の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 平成8年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第20条別表第9(1)、第21条別表第10及び第22条別表第11の規定の適用については、別に定めるとおりとする。

附 則

この学則は、平成9年7月29日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 平成9年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第3項別表第2(一)(2)、別表第3(一)(2)、別表第6(一)(3)、別表第7(一)(2)(ロ)及び(二)並びに学則第15条別表第8国際文化学部国際文化学科及び国際文化学部地域文化学科の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成8年度及び平成9年度に入学した学生に対する改正前の学則第15条別表第8国際文化学部地域文化学科の規定については、授業科目数及び単位数欄中専門科目E群生活科学部門の「同一系から2科目6単位」を削り、「48単位」を「42単位」に、「72単位」を「66単位」に、「A群～G群から20単位」を「A群～G群から26単位」に改めて適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 商学部第一部観光産業学科及び商学部第二部観光産業学科の収容定員は、第12条の規定にかかわらず、平成11年度から平成14年度までは、次のとおりとする。

学部	学科	平成11年度			平成12年度			平成13年度			平成14年度		
		入学定員	編入学定員	収容定員									
商学部第一部	観光産業学科	150	—	150	150	—	300	150	15	465	150	15	630
商学部第二部	観光産業学科	50	—	50	50	—	100	50	5	155	50	5	210

- 3 平成10年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第3項別表第1(二)4(三)、別表第2(一)(二)(三)(四)、別表第3(一)(二)(三)、別表第4(一)(1)(ハ)(2)(ロ)(ハ)(二)(4)(5)(6)、別表第6(二)(4)(5)(6)(三)及び別表第7並びに学則第15条別表第8経済学部経済学科、商学部第一部商学科、商学部第二部商学科、経営学部、芸術学部、国際文化学部国際文化学科及び国際文化学部地域文化学科の規定の適用については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 平成11年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第1項及び第3項別表第1(五)、別表第2(1)(一)(ロ)、(五)、別表第3(1)(一)(ロ)、(四)、別表第4(五)、別表第5、別表第6(一)(1)(2)、(五)、別表第7(一)(1)(ハ)「教科に関する科目」、(一)(2)(ハ)「教科に関する科目」、(五)並びに学則第15条別表第8工学部、芸術学部美術学科及びデザイン学科の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 平成11年度以前に入学した国際文化学部地域文化学科の学生に対する改正後の学則第22条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 4 第12条の規定にかかわらず、次の学部、学科の入学定員及び収容定員は、平成12年度から平成16年度までの間は次表のとおりとする。

学部	学科	平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		
		入学定員	収容定員									
経済学部	経済学科	昼間主コース	485	1,985	470	1,955	455	1,910	440	1,850	425	1,790
		夜間主コース	145	595	140	585	135	570	130	550	125	530
商学部第一部	商学科	485	1,985	470	1,955	455	1,910	440	1,850	425	1,790	
商学部第二部	商学科	145	595	140	585	135	570	130	550	125	530	
経営学部	国際経営学科	240	990	230	970	220	940	210	900	200	860	
	産業経営学科	240	990	230	970	220	940	210	900	200	860	

工 学 部	機械工学科	127	517	124	511	121	502	118	490	115	478
	電気工学科	145	595	140	585	135	570	130	550	125	530
	工業化学科	127	517	124	511	121	502	118	490	115	478
	土木工学科	127	517	124	511	121	502	118	490	115	478
	建築学科	145	595	140	585	135	570	130	550	125	530
芸 術 学 部	美術学科	129	519	128	517	127	514	126	510	125	506
	デザイン学科	198	798	196	794	194	788	192	780	190	772
	写真学科	138	558	136	554	134	548	132	540	130	532

附 則

- この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 平成12年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第1項、第3項別表第1、別表第2(1)(2)(一)(イ)(ロ)(二)(三)(四)(五)(六)、別表第3(1)(2)(一)(イ)(ロ)(二)(三)(四)(五)、別表第4(一)(1)(2)(二)(1)(2)(3)(4)(5)(三)(四)、別表第6(一)(3)(二)(1)(2)(3)(4)(三)及び学則第15条別表第8経済学部、経営学部、芸術学部並びに学則第57条第1項別表第13(3)の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成12年度に入学した学生に対しては、改正後の学則第13条第3項別表第2(2)(一)(ハ)、別表第3(2)(一)(ハ)、別表第6芸術学部(一)(2)「ペーパーデザインコース(ハ)、プロダクトデザインコース(ハ)」を適用する。

附 則

- この学則は、平成14年4月1日から施行する。
- 平成13年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条第1項及び第3項別表第5(一)(2)、(五)、別表第6(一)(1)(3)(4)、(五)並びに学則第15条別表第9工学部並びに芸術学部の規定の適用については、なお従前の例による。
- 平成13年度に入学した学生に対しては、改正後の学則第13条第3項別表第4(一)(2)(ロ)、(五)を適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第7(一)(1)(ハ)の規定は、平成12年度入学生から適用する。
- 学則第12条の規定にかかわらず、次の学部、学科の入学定員及び収容定員は、平成14年度から平成16年度までの間は次表のとおりとする。

学 部	学 科	平成14年度		平成15年度		平成16年度		
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
経 済 学 部	経済学科	昼間主コース	430	1,885	415	1,800	400	1,715
		夜間主コース	100	535	100	485	100	440
商学部第一部	商 学 科	430	1,885	415	1,800	400	1,715	
商学部第二部	商 学 科	100	535	100	485	100	440	
経 営 学 部	国際経営学科	220	940	210	900	200	860	
	産業経営学科	220	940	210	900	200	860	
工 学 部	機械工学科	106	487	103	460	100	433	
	電気工学科	135	570	130	550	125	530	
	工業化学科	106	487	103	460	100	433	
	土木工学科	106	487	103	460	100	433	
	建築学科	110	545	105	500	100	455	
芸 術 学 部	美術学科	102	489	101	460	100	431	
	デザイン学科	184	778	182	760	180	742	
	写真学科	114	528	112	500	110	472	

附 則

- この学則は、平成14年5月24日から施行する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第8(一)(1)及び(2)並びに学則第15条別表第9情報科学部の規定は、平成14年度入学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 改正後の学則第13条第3項別表(一)(3)(ロ)7、別表第2(1)(二)、(2)(二)、別表第3(1)(二)、(2)(二)、別表第6(二)(4)及び別表第7(二)(1)(2)の規定は、平成13年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第1(二)(2)、別表第4(二)(4)及び別表第8(二)(四)(五)の規定は平成14年度入学生から適用する。
- 改正後の学則第13条第3項別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「英検中級Ⅰ、英検中級Ⅱ、英検上級Ⅰ、英検上級Ⅱ」及

び学則第13条第3項別表第2(2)(ハ)の配当科目「TOEICⅠ、TOEICⅡ、TOEICⅢ」は、平成11年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 工学部工業化学科を物質生命化学科に、工学部土木工学科を都市基盤デザイン工学科に名称を変更することに伴う改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第5(一)(3)(4)、第15条別表第9及び第22条の規定は、平成16年度に入学生から適用し、平成15年度以前に入学生に対する適用については、なお従前の例による。
- 3 学則第12条の規定にかかわらず国際文化学部の3年次編入学定員については、平成18年度から適用する。
- 4 平成15年度以前に入学生に対する改正後の学則第13条第3項別表第1(一)(二)(三)(1)(四)(五)(六)、別表第2(1)(一)(イ)(ロ)(二)(四)(五)(六)、(2)(一)(イ)(ロ)(二)(四)(五)(六)、別表第3(1)(一)(イ)(ロ)(二)(四)(五)、(2)(一)(イ)(ロ)(二)(四)(五)、別表第4(一)(二)(四)(五)(六)、別表第5(一)(二)(四)(五)(六)、別表第6(一)(二)(1)(3)(4)(5)(四)(五)(六)、別表第7(一)(二)(四)(五)(六)、別表第8(四)、第15条別表第9経済学部、工学部、芸術学部及び国際文化学部の規定の適用については、なお従前の例による。
- 5 学則第18条第3項及び第18条の2の規定は、平成16年度入学生から適用する。
- 6 改正後の学則第13条第3項別表第1(三)(2)の配当科目「外国語特講1、外国語特講2、外国語特講3及び外国語特講4」は、平成13年度入学生から適用する。
- 7 改正後の学則第13条第3項別表第2(1)(三)(2)(三)、別表第3(1)(三)(2)(三)、別表第4(三)(イ)(ロ)、別表第5(三)、別表第6(三)及び別表第7(三)(1)(2)の配当科目「特殊講義(英語会話)」は、平成13年度入学生から適用する。
- 8 改正後の学則第13条第3項別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「1級商業簿記Ⅰ、1級商業簿記Ⅱ、1級会計学Ⅰ、1級会計学Ⅱ、1級工業簿記Ⅰ、1級工業簿記Ⅱ、1級原価計算Ⅰ、1級原価計算Ⅱ、特別講義Ⅴ(学生サポーター)」は、平成13年度入学生から適用する。
- 9 改正後の学則第13条第3項別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「近代流通史、eコマース論、eコマース実践論、ビジネストラックⅡ(職業意識)」及び別表第3(1)(一)(ハ)の配当科目「ビジネストラックⅡ(職業意識)」は、平成15年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 改正後の学則第13条別表第2(1)(一)(ハ)、別表第3(1)(一)(ハ)の配当科目「プロジェクトワーク」は、平成14年度入学生から適用する。
- 3 改正後の学則第13条別表第2(1)(一)(ハ)、(2)(一)(ハ)、別表第3(1)(一)(ハ)、(2)(一)(ハ)の配当科目「特別講義Ⅵ(インターンシップ)」は、平成15年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第5(一)(3)(イ)の配当科目「応用化学実験(コンピュータ活用を含む)」、(ロ)の配当科目「無機化学」及び「インターンシップ」は、平成16年度入学生から適用する。
- 5 改正後の学則第13条別表第5(一)(4)(イ)の配当科目「地盤工学Ⅱ」、「建設CAD演習」、「建設材料実験」、「都市計画学」及び「環境水理実験」、(ハ)の配当科目「都市基盤建設施工学」、「建設材料工学演習」、「工学のための解析学」、「応用物理学Ⅱ」、「建設マネジメント」、「コンクリート構造工学演習」、「都市基盤計画学演習」、「橋梁工学」、「工業爆薬学」、「都市基盤デザイン実習」、「都市建設施工学」及び「維持管理システム」は、平成16年度入学生から適用する。
- 6 改正後の学則第13条別表第7(二)(ロ)の配当科目「実践学修A(学生サポーター)」は、平成14年度入学生から適用する。
- 7 改正後の学則第13条別表第8(三)の配当科目「英語会話Ⅶ」及び「英語会話Ⅷ」は、平成14年度入学生から適用する。
- 8 改正後の学則第15条別表第9工学部都市基盤デザイン工学科は、平成16年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成17年4月22日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年7月22日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 改正後の学則第13条別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「経営分析、ビジネス特講Ⅳ」及び別表3(1)(一)(ハ)の配当科目「ビジネス特講Ⅳ」は、平成15年度入学生から適用する。
- 3 改正後の学則第13条別表第7(二)(1)(2)(3)(ロ)の配当科目「実践学修B(インターンシップ)」及び別表第8(一)(1)(2)(ハ)の配当科目「情報と職業」は、平成16年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成18年度以前に入学生に対する改正後の学則第13条別表第3、別表第4、別表第5、別表第7、別表第9及び別表第14の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第2(1)(一)(ハ)の配当科目「特別講義Ⅶ(NHKメディア講座)、広告実践論及び中小企業経営論」は、平成15年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第2(2)(一)(ハ)の配当科目「特別講義Ⅶ(NHKメディア講座)、特別講義Ⅷ(日韓観光特講)」は、平成15年度入学生から適用する。
- 5 改正後の学則第13条別表第3(1)(一)(ハ)の配当科目「中小企業経営論」は、平成15年度入学生から適用する。
- 6 工学部電気工学科を電気情報工学科に名称変更することに伴う改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第5(一)(2)、第15条別表第9及び第22条の規定は、平成19年度に入学生から適用し、平成18年度以前に入学生に対する適用については、なお従前の例による。

- 7 平成18年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第12条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 8 商学部第二部観光産業学科は、平成19年4月1日から学生募集を停止し、当該在学生の卒業を待って廃止する。

附 則

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成19年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第12条、第13条別表第1から別表第8、第15条別表第9、第22条及び第31条別表第14の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 芸術学部写真学科を写真映像学科に、国際文化学部地域文化学科を日本文化学科に名称変更することに伴う改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第6(一)(3)、別表第7(一)(2)、(二)(2)、(三)(2)、(四)(2)、第15条別表第9、第22条及び第31条別表第14の規定は、平成20年度に入学した学生から適用し、平成19年度以前に入学した学生に対する適用については、なお従前の例による。
- 4 改正後の学則第13条別表第1から別表第8の「基礎教育科目」の配当科目「ゼミナール・サポーター」は、平成17年度入学生から適用する。
- 5 芸術学部芸術工芸学科は、平成20年4月1日から学生募集を停止し、当該在学生の卒業を待って廃止する。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成20年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第1から別表第8、第15条別表第9及び第22条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第2の(2)(一)(ハ)の配当科目「観光特講Ⅰ、観光特講Ⅱ、観光特講Ⅲ及び観光特講Ⅳ」は、平成18年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成21年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第1から別表第8、第15条別表第9及び第22条の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第1の(三)(2)、別表第2の(1)(三)、(2)(三)、別表第3の(三)、別表第4の(1)(一)(ロ)、(2)(三)、別表第5の(三)、別表第6の(三)、別表第7の(三)及び別表第8の(三)の配当科目「Four SkillsⅠ」「Four SkillsⅡ」「Introduction to Online English」「Professional Writing Skills」「Introduction to Translation」「Writing for Specific Purposes」「Advanced Reading & WritingⅠ」「Advanced Reading & WritingⅡ」「Domestic Job Training」「Overseas Job Training」は、平成19年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第2の(2)(一)(ロ)の配当科目「観光心理学」、(ハ)の配当科目「観光行動論」及び別表第5の(3)(ハ)の配当科目「火薬工学」は、平成19年度入学生から適用し、別表第7の(3)(ロ)の配当科目「心理学基礎実験演習」は平成20年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成22年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第1、別表第2(1)商学科(二)基礎教育科目から(五)教職に関する科目、(2)観光産業学科(二)基礎教育科目から(五)教職に関する科目、別表第3から別表第8、第15条別表第9及び第22条別表第14の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第1の(二)(2)(ハ)、別表第2の(1)(二)(3)及び(2)(二)(3)、別表第3の(二)(3)、別表第4の(1)(二)(3)、別表第5の(二)(3)、別表第6の(二)(3)、別表第7の(二)(3)及び別表第8の(二)(3)の配当科目「キャリア形成戦略」は平成21年度の入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成23年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条別表第1から別表第9の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第7の(一)(2)(ハ)〇C群(日本語日本文学コース)の配当科目「オフィスコミュニケーション」は、平成22年度別表第7の(一)(2)(ハ)〇C群(歴史・文学コース)に配当し、平成22年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成24年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条別表第1から別表第9の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第2の(1)(一)(ロ)及び別表第2の(2)(一)(ハ)の配当科目「リサーチスキル」は、平成22年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第2の(2)(一)(ハ)の配当科目「観光韓国語Ⅲ」、「観光中国語Ⅲ」、「キャリア実践講座・中級」は、平成23年度入学生から適用する。
- 5 改正後の学則第13条別表第2の(2)(一)(ハ)の配当科目「キャリア実践講座・初級」は、平成24年度入学生から適用する。
- 6 改正後の学則第13条別表第5の(一)(7)(ロ)の配当科目「ロボット設計基礎」は、平成24年度入学生から適用する。
- 7 改正後の学則第29条別表第14の(1)イ入学検定料は、平成25年度志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。

- 2 平成25年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条及び第13条別表第1から別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第2の(一)(2)の配当科目「実践企画演習Ⅰ」、「実践企画演習Ⅱ」、「実践企画演習Ⅲ」、「実践企画演習Ⅳ」については、平成23年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第3の(1)(一)(ロ)の配当科目「地域振興論」、「国内金融研修」、「地域振興プロジェクト演習」、「インターンシップ」、「キャリア開発プランニング」は、平成23年度入学生から適用する。
- 5 改正後の学則第13条別表第3の(2)(一)(ハ)の配当科目「観光振興プロジェクト演習」、「鉄道産業プロジェクト演習」は、平成23年度入学生から適用する。
- 6 改正後の学則第13条別表第4の(一)(イ)の配当科目「地域振興論」、「キャリア開発プランニング」は、平成23年度入学生から適用する。
- 7 改正後の学則第13条別表第6の(一)(3)(ロ)の配当科目「応用生物科学」及び(ハ)の配当科目「分子生物科学」は、平成23年度入学生から適用する。
- 8 改正後の学則第23条の「図書館法第5条第1項第1号により司書の資格を得ようとする者」の規定は、平成24年4月1日から適用する。
- 9 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は、平成26年度入学試験の志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成26年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第13条及び第13条別表第1から別表第15の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第13条別表第3の(1)(一)(ロ)の配当科目「特別講義Ⅸ」、「特別講義Ⅹ」、「特別講義Ⅺ」及び「特別講義Ⅻ」については、平成24年度入学生から適用する。
- 4 改正後の学則第13条別表第3の(2)(一)(ハ)の配当科目「特別講義Ⅸ」、「特別講義Ⅹ」、「特別講義Ⅺ」及び「特別講義Ⅻ」については、平成24年度入学生から適用する。
- 5 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は平成27年度入学志願者から適用する。
- 6 九州産業大学学部長会議申し合わせは、廃止する。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成27年度以前に入学した学生に対する改正後の学則第8条、第12条、第13条別表第1から別表第9、第15条別表第10、第22条及び第25条別表第13の規定の適用については、なお従前の例による。
- 3 改正後の学則第29条別表第15の(1)イ入学検定料は、平成28年度入学志願者から適用する。

【経済学部】

経済学部は、学修を通して自分の考えをつくりあげ、自ら進んで社会の持続的な発展と人びとの福利に寄与できる人材の育成を目指す。この目的を実現するため、昼間時間帯の受講を中心とする昼間主コースと夜間時間帯の受講を中心とする夜間主コースを設置し、経済学の基礎から応用・実践までを、「地域経済系列」と「国際経済系列」として系統的に学ぶカリキュラムを編成している。加えて、系列の下に、就職やその後の業務を意識して学生が選択する「地域経済トラック」「国際経済トラック」「金融トラック」「公共トラック」「経済教育トラック」という五つのトラックを置いている。これらのトラックでの学修を通して、地域の産業界や地方公共団体などで活躍する人材や、グローバルな視点を身につけて国内外で活躍する人材の養成を目指している。

【学位の授与方針(ディプロマ・ポリシー)】

経済学部では、基礎教育科目と外国語科目で多様な科目と外国語を学修し、幅広い教養的知識と多様な文化ならびに価値を知り、加えて専門教育科目の学修により専門的知識と応用力を身に付け、総体として、社会に寄与するに必要とされる知恵とモラル、そして人間力を修得した者に対し、卒業と学士の学位を授与する。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

少人数制のゼミナールを重視した教育を行う。経済学を中心に会計学・経営学、法学・政治学、情報学、体験型科目、キャリア科目などを学ぶ専門科目群、豊かな人間性を養う基礎教育科目群、及び国際的なコミュニケーション能力を身につける外国語科目群により、カリキュラムを編成している。

専門科目についてはミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、現代の経済学入門、経済学入門、情報処理入門、統計学、経済史、社会思想史など基礎的な科目を1年次に履修し、2年次以降に「地域経済系列」と「国際経済系列」に共通に配当された専門科目を、各トラックにしたがって履修する。各トラックでは、上に挙げた基礎的な科目の他、重要なものが推奨科目として提示されている。例えば、地域経済トラックでは、日本経済史、地域経済論、地域開発論、社会保障論、中小企業論、経済地理、経済変動論、実践企画演習など、国際経済トラックでは、西洋経済史、国際経済学、貿易論、農業経済論、アジア経済論、経済学史、経済思想史、海外研修など、金融トラックでは、簿記論、金融論、国際金融論、銀行論、情報処理論など、公共トラックでは、経済原論、国民所得論、公共経済学、経済政策、財政学、地方財政論、社会政策、地方行政論など、経済教育トラックでは、ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、法学概論などが推奨される。

このように各トラックの推奨科目を設けることで、各学生を就職やその後の業務を意識して受講科目を選択するよう導く編成にしている。

【入学者の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)】

経済学部の教育目標である、「地域の産業界や地方公共団体などで活躍する人材や、グローバルな視点を身につけて国内外で活躍する人材の養成」に賛同する人に対し、積極的に門戸を開いている。より具体的には、現実の経済について興味・関心の高い人、経済の知識や資格を活かして実務の世界で活躍したい人、地域社会の発展や活性化に貢献したいと考える人、グローバルに活躍したいと考えている人を、年齢を問わず積極的に受け入れている。

このような入学者の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を学則、ホームページなどに明示し、受験生に対し、分かり易く説明している。また、推薦入試の合格者に対しては、入学前に『合格者のみなさんへ』という文書とともに、高校時代に読んでおくと望ましい書物の一覧を送付し、入学に備えるよう促している。

【商学部第一部(商学科・観光産業学科)・商学部第二部(商学科)】

商学部は、「産学一如」という建学の理想を反映して、旧来の狭い範囲での商業活動に限定せず、グローバルなビジネスと観光の一大拠点である福岡を基盤とした実践的教育を通して、企業・経済活動、地域社会、国際社会に対応できる多様な価値観と幅広い視野を持つ「快活で行動力あるビジネスリーダー」を育成することで、地域社会への貢献を目指す。

《商学科(第一部・第二部)》

商学科では、商学を始め、会計学、経営学、経済学の分野における理論的・実践的な教育を通じて、福岡の地の利と伝統を活かし、新しい時代に対応する変化力を持つ「ニュービジネスを創出できる人材」の育成を目指す。

《観光産業学科》

観光産業学科では、観光ホスピタリティ・ビジネス、観光地域マネジメントの分野における理論的・実践的な教育を通じて、社会の変化に対する問題設定、解決能力を身につけ、九州、東アジアを舞台に活躍する「観光プロフェッショナル」の育成を目指す。

【学位の授与方針(ディプロマ・ポリシー)】

理論と実践の両面から学び、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地域社会に主体的に貢献できる人材を育成する。教育課程の中から指定された単位を含め、124単位以上を修得し、知識、社会適応力、総合的な学習経験を獲得した者に対して、卒業を認め、学士の学位を授与する。

《商学科(第一部・第二部)》

(1) 幅広い教養と専門分野の基礎となる実践的な知識を身につけている。(2) 商取引に関して正しく理解できる。(3) 問題設定能力とその解決能力を身につけている。(4) マーケットとビジネスに精通した企業人および起業家としてのマインドを身につけている。(5) コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を身につけている。

《観光産業学科》

(1) 観光産業の本質を正しく理解する事ができ、かつ高い倫理観と高度な専門知識を身につけている。(2) 観光ビジネス、観光まちづくりに関する高度な専門知識を身につけている。(3) 問題設定能力とその解決能力を身につけている。(4) 多様な価値観の共有ができ、広く地域社会へ貢献することができる。(5) コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を身につけている。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

商学部の教育は「産学一如」という本学の建学の理想を体現するものであり、この目的に沿って体系的なカリキュラムを編成し、学生の卒業後の進路等、将来計画に対応した履修モデルを設けている。

《商学科(第一部)》

主に商学を中心として、商業の本質について考察する理論的側面と、経済社会および企業活動での応用・展開を追究する実践的側面から、多面的な視点を養うためのカリキュラムを用意している。商学・会計学・経営学・経済学など、幅広い分野の基礎から応用まで、ビジネス全般に関する総合的な教育を行っている。

《観光産業学科》

ホスピタリティ・マインドを養うとともに多様な価値観を持つ豊かな人間性を育むための教育を行っている。そのため、心の満足を提供する「観光ホスピタリティ・ビジネス」と地域・人との交流に重点を置く「観光地域マネジメント」の両面から観光産業の総合力を修得できるようにカリキュラムを編成している。

《商学科(第二部)》

基本的に商学部第一部商学科のカリキュラムと同様であるが、夜間講座の特徴を活かし、即戦力養成のための資格講座の単位化、他学部履修の選択幅の拡大など、多様なライフスタイルを持つ学生に対応できる教育を行っている。

【入学者の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)】

商学部では、企業・経済活動、地域社会、国際社会に対応できる多様な価値観と幅広い視野を持つ「快活で行動力あるビジネスリーダー」の育成を目指す。理論と実践の両面から学び、多様な学問・文化・言語・価値観の交流に積極的に取り組み、新しい時代に対応する「変化力」を身につけ、地域社会に主体的に貢献しようとする次のような学生を積極的に受け入れる。

《商学科(第一部・第二部)》

(1)世の中の動きを敏感にとらえ、旺盛な好奇心を持って、ビジネスを考えようとする人 (2)「ヒト・モノ・カネ・情報」の流れに関心があり、ビジネスに関する専門的な知識・見識を修得しようとする人 (3)勉学に真摯に取り組み、努力する習慣を身につけようとする人 (4)社会に何らかの形で貢献したいと思っている人

《観光産業学科》

(1)人との交流やサービス業に関心があり、観光に関する専門的な知識を習得したい人 (2)自然や文化を愛し、それらとのかかわりを通じて豊かな人間性を育みたい人 (3)地域や郷土を愛し、それらの発展に寄与したい人 (4)将来、観光産業やホスピタリティ・ビジネスの分野で活躍したい人

【経営学部】

経営学部は、学則第1条に定める九州産業大学の「産学一如」の理想のもと、経営学の専門的な学修を通じて、広く産業界の期待に応えられる“実践力”“熱意”“豊かな人間性”を持った人材を輩出すべく、知性・感性・想像力の開発を重視し、21世紀のグローバル化社会・知識基盤社会の要請に対応できる人材育成に努める。

経営学部が目標とするのは、実社会で即戦力となる有能な人材としての、豊かな教養と深い専門知識を具えた堅実有為の社会的な人格である。国際経営学科ではグローバル社会で活躍できる人材、すなわち、異文化理解と語学力を基盤として、地球社会全体の発展を視野に入れたビジネス・パーソンを養成する。産業経営学科では、IT革命による経営環境の激変に対応しうる独立心旺盛な経営者候補生、すなわち知識基盤社会の要請に対応した起業家マインドとビジネス・スキルを持ちながらも、つねに社会貢献を意識しているビジネス・パーソンを養成する。

【学位の授与方針(ディプロマ・ポリシー)】

「産学一如」の理想のもとに経営学部が定めた人材育成の目標に到達した者に、学位を授与する。具体的には、国際経営学科・産業経営学科ともに、学生に学士力、すなわち(1)文化・社会・自然等の知識・理解、(2)コミュニケーション能力・問題解決能力等の汎用的技能、(3)自己管理能力・チームワーク・社会的責任等の態度・志向性、(4)総合的な学習経験と創造的思考力を獲得させるとともに、各学科が目標とする人材育成のために編成された教育課程で4年以上学修し、所定の124単位以上を取得した者に対して卒業を認め、学位を授与する。明確に具体化された学位授与方針の積極的な公開のあり方については、常に点検・評価を行うこととする。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

「産学一如」の理想を実現する人材育成のため、(1)経営学の理論と実践をはかる先進的なカリキュラムをベースとして、(2)順次性のある体系的科目編成と、(3)分野別コアカリキュラム、(4)学生の意欲・関心・能力に応じた科目選択、(5)少人数教育の推進を教育課程の編成・実施の方針とし、その運営は、(6)学生一人ひとりに向き合い、その長所の伸長を目指す学部教員一体の体制により行う。

経営学部の教育課程の中核は、全学年・全セメスター開講のフル・ゼミナール体制と各学科独自の特別コースからなるマルチ・ゼミナール方式である。国際ビジネスコース(国際経営学科)ではグローバルな視野と異文化理解能力及び言語能力を育む実践的な演習を通じて、事業開発コース(産業経営学科)では商品開発や地域貢献等の実践的活動を通じて、会計コース(両学科)では会計の専門的訓練を通じて、学部・学科の人材育成目標を目指す。以上の専門教育課程はディプロマ・ポリシーで述べた学士力獲得の基盤となる全学共通基礎教育・外国語教育と連動して展開される。

経営学部の教育の特色は、ゼミナールやPBLなど、学生に能動的な学修を促す全学年一貫のアクティブ・ラーニングの手法に求められる。また、単位の実質化をはかる一方で、開講科目の関連を示したフローチャートや授業計画のシラバスへの明記、GPAによる成績評価など、学生が自主的・自立的に学ぶ体制の構築にも努めている。教育課程の編成・実施の更なる進化のために、定期的な点検・評価を行うこととする。

【入学者の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)】

「産学一如」の理想のもとで、実社会で即戦力となる有能な人材を育成する教育課程に相応しい入学者として、ビジネスを通じて地域社会・国際社会に貢献する目的を持ち、そのために経営学を学びたいという明確な意思を持った入学者を求める。具体的には、(1)将来の目標を明確に持ち、その実現のためにビジネスの知識を必要とする学生、または(2)語学・情報・簿記など、これまで様々な分野の資格獲得のため積極的に活動し、その成果を大学教育の場でさらに高めていきたい学生を求める。

また、入学者の実情に合った受け入れ・定着と教育効果を向上させるために、大学教育と入学者の適合性の観点から、

入学者選抜方法と初年次教育プログラムに関する定期的な点検・評価を行うこととする。

【工 学 部】

工学部では、工学の基礎への深い理解を示すとともに、広い視野と柔軟な発想力および豊かな人間性と実践力を育み、もって産業界の中核を支え、かつ国際的にも通用する人材の育成を目指している。そのため、日本技術者教育認定機構(JABEE)のプログラムなどにより、国際的な基準に則した教育を行うとともに、実験実習を重視した体得型実技教育を展開している。あわせて、職業意識を啓発するインターンシップ、資格取得および学生による研究サークル活動を支援している。

《機械工学科》

社会の基盤を支える機械分野に関連した設計、開発、製造など幅広い職場で活躍しうる人材の育成を目的とする。具体的には材料力学、工作法、製図法を中心とする機械工学の基礎に加え、社会人として必要な基本的生活習慣、規範意識、一般常識およびコミュニケーション能力を身に付けた人材を育成する。

《電気情報工学科》

電気電子・情報通信工学に関連する技術は、「エネルギーから情報まで」の広範な分野において基幹技術としての位置を確立しているだけでなく、社会システムのあり方を大きく変革する勢いにある。本学科では、電気電子・情報通信工学分野の産業の発展に貢献できる技術者の育成を目指している。

《物質生命化学科》

物質や生命に関わる広い範囲の知識を理解し、広い視点から問題を解決し、自然と人間との調和を考えた豊かな社会の創造と産業の発展に貢献できる人材を育成する。

《都市基盤デザイン工学科》

「土木デザイン分野」、「施工管理分野」、「まちづくり分野」、「環境緑化分野」の4分野を柱とし、橋梁や建築などの構造物や街並みの設計・デザイン、造園やビオトープの設計・デザイン、生態系の保全まで、幅広い分野の技術と知識の修得を目指し、住みよいまちづくりを学び研究する。

《建築学科》

工学における一般的素養をベースに建築学に関する幅広い専門知識を修得し、安全で美しく快適な人間活動の器としての建築や都市を経済性をも考慮しながら計画し、設計し、築き、運営することができる基礎能力と高度な専門知識と技術およびそれを実務に適用し得る能力を有する技術者。

《住居・インテリア設計学科》

住居・インテリア設計学科では、建築学一般の知識や技術を基盤として、インテリアに強い住宅作家、オフィスやショップの空間設計者、住宅をはじめ各種建築からまちづくりまでを担う建築家、住宅リフォームや高齢者住宅改修アドバイザー、集合住宅の管理業務者など、住宅およびインテリアの専門家養成を目指している。

《バイオリボティクス学科》

機械工学、電気工学、電子工学、情報工学、メカトロニクス、生体工学といった基礎的な技術領域とともに、ロボットや医療・福祉機器をはじめ産業用から家電生活機器に至る幅広い分野に応用される専門知識・教養と高い見識を持ち、社会の即戦力となる実力と創造性あふれる開発力を持った人材の育成を目指している。

【学位の授与方針(ディプロマ・ポリシー)】

工学部では、工学の基礎への深い理解を示すとともに、広い視野と柔軟な発想力および豊かな人間性と実践力を育み、もって産業界の中核を担い、かつ国際的にも通用する人材の育成を目指している。

《機械工学科》

機械分野の仕事で必要とされる基礎学力、機械工学の基礎およびコミュニケーション能力を身に付けた者に学位を授与する。

《電気情報工学科》

電気情報工学の専門基礎能力を有し、その能力に基づいて新しい技術を開発することができる素養を身につけており、科学技術の発展に貢献し、電気電子・情報通信の幅広い分野で活躍できる技術者の育成を目指している。

《物質生命化学科》

物質・生命・環境関連分野において、獲得した知識を知恵に展開できる人、すなわち「豊かな探求能力と解決能力を備え」て、自発的・計画的に行動できる学生を育成する。

《都市基盤デザイン工学科》

目指すべき人物像は、実社会で土木構造物、まち・建物、環境・緑化をデザイン・施工管理する技術者である。具体的到達目標は、幅広い学問的知識を習得し、地球環境に配慮できる素養を身につけることである。

《建築学科》

建築設計・計画・歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市・地域計画などに関する高度な専門知識と技術およびそれを実務に適用し得る能力を修得していることである。

《住居・インテリア設計学科》

建築学一般をはじめ、住居・インテリアに関する幅広い知識を基盤にした設計・デザイン能力を有し、これを多様なニーズに対して応用し総合的な問題解決に取り組むことができる実践的技術者を育成する。

《バイオリボティクス学科》

機械工学、電気工学、電子工学、情報工学、メカトロニクス、生体工学といった幅広い学問的知識とその応用力を身につけ、ロボットや医療・福祉機器の開発に携わることのできる創造性あふれる技術者を育成する。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

工学部では、工学の基礎への深い理解を促す各学科の専門教育だけでなく、広い視野と柔軟な発想力および豊かな人間性を育むための人文社会科学や芸術などに関する教育、国際的に通用するコミュニケーション力を身につけるための外国語教育を行っている。

《機械工学科》

基礎学力から機械工学の基礎までを段階的に学び仕事に生かせるよう、座学のみならず実験・実習を積極的に取り入れた体系的なカリキュラムを編成する。また、カリキュラムに沿った学習の前提となる「基本的生活習慣」と「規範意識」を身に付けさせるための統一的な指導を組み合わせるにより教育効果を高める。

《電気情報工学科》

電気情報工学科の専門教育では、専門科目を電気エネルギー系、通信システム系に分け、その共通系として電気・情報基礎、エレクトロニクス関連科目を設け、基礎知識を確実に修得でき、電気電子・情報通信機器、コンピュータ応用

技術、電気・通信工事等の幅広い分野での応用力および実践力が身につく系統的な教育を行っている。

《物質生命化学科》

物質生命化学の基礎となる「化学・生物」に重点をおいた少数教育を行ったのち、応用生物・応用化学の専門について重点的に教育する。さらに、学んだことを社会に役立てるため、総合的な視野と柔軟で論理的な思考力を培う。

《都市基盤デザイン工学科》

「実社会で土木構造物、まち・建物、環境・緑化をデザイン・施工管理する技術者の育成を目指す教育」を教育目標とし、実務を重視した教育を行っている。教育課程は、土木デザイン分野、施工管理分野、まちづくり分野、環境緑化分野の4分野にわたる基礎科目、専門科目、実験科目、演習・実習科目で構成されている。

《建築学科》

安全性や耐久性などを学ぶ「構造・生産系」、空間の快適性や省エネなどを学ぶ「環境・設備系」、デザインや空間の機能性を学ぶ「計画・歴史系」の3つの専門分野の考え方や相互の関係を学び、それらを総合して建築設計を学修することである。

《住居・インテリア設計学科》

授業科目は、専門科目、基礎教育科目、外国語科目に区分されている。専門科目では、1～2年次に工学的素養や建築・住居を中心とした専門の基本的事項を学ぶための科目を、3～4年次に住居・インテリアの専門性を高める科目、更に建築の専門性を高める科目も配当している。

《バイオリボティクス学科》

創造性あふれる開発力を持った人材の育成に向け、実践力・創造性教育を重視した実験・実習系の科目を含む6系列の専門科目、および、その基盤となる基礎科目、また、国際的なコミュニケーション力を身につけるための英語教育を中心とした外国語科目、社会人基礎力を高めるキャリア系科目によって構成される。

【入学者の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)】

工学部では、工学の基礎への深い理解を示すとともに、広い視野と柔軟な発想力および豊かな人間性と実践力を育み、もって産業界の中核を担い、かつ国際的にも通用する人材の育成を目指しており、これを実現するため、科学技術、ものづくりや新たな仕組みづくりに強い関心を持つ人、身につけた知識や技術を社会に役立てたいという情熱を持つ人、目的意識とチャレンジ精神をもって時代を切り開く意志をもつ人を積極的に受け入れる。

《機械工学科》

機械工学を学ぶための基礎学力を有する者および機械工学の学習とそのために必要な基礎学力の修得に強い意欲を持ち、かつ、学んだ内容を機械に関わる業務の現場で生かす意思のある者を受け入れる。

《電気情報工学科》

電気情報工学科は、ハードとソフト、アナログとデジタルに強い技術者の育成を理念としており、電気電子・情報通信工学に関する知識や技術の修得に高い意欲を持ち、課題に粘り強く取り組む人を積極的に受け入れる。

《物質生命化学科》

食品・医薬品分野、材料分野、環境関連分野で活躍したいという目的意識と向上心がある人、実験や観察が好きで、新しい発見に意欲と情熱を持って取り組める人、人とのコミュニケーションを積極的に取れる人。

《都市基盤デザイン工学科》

持続可能な環境づくりについて学修する意欲を持つ人、災害に強く、安心で安全、美しく住みやすいまちづくりに興味を持つ人、学んだ知識や技術を通じて資格を取得する意欲を持つ人を、積極的に受け入れる。

《建築学科》

幅広い教養と高い倫理観をもって専門知識を社会の多様な要請に沿って柔軟に発揮し得る技術者育成のために、建築や住まいづくり・まちづくり、地球温暖化などの環境問題、地震災害や風水害の防止など生活空間の安全性および広く生活空間の歴史や文化・町並み・景観などに興味・関心のある人を求める。

《住居・インテリア設計学科》

建築学一般の知識や技術を基盤として、住居やインテリアの設計、ショップやオフィスまたそのインテリアの設計、広く生活空間の歴史や文化・まちづくりなどに興味・関心のある学生を求める。

《バイオリボティクス学科》

バイオリボティクス学科で学ぶ学問をベースとし、幅広い分野に応用できる専門知識と技術を十分に修得することを希望する学生、課題に対して自ら考え創造性あふれる開発能力を身につけたい学生を募集する。

【芸術学部】

芸術学部は、多様化する新しい時代の要請に応え地域から世界に至る人類社会の発展に貢献するために、芸術表現学科、写真・映像メディア学科、ビジュアルデザイン学科、生活環境デザイン学科、ソーシャルデザイン学科で構成し、「産学一如」の建学の理想のもと地域産業との連携や国内外の大学との共同研究や人的交流を積極的に推し進め、社会と文化の創造に貢献できるアーティスト、デザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者を養成する。

《芸術表現学科》

芸術表現学科は、地域社会およびグローバル社会の芸術文化の創造に貢献するため、独創的な造形力や審美力を基に伝統的な表現手法や先端的な表現手法を用いて、新たな芸術を創造できる芸術表現分野の専門家を養成する。

《写真・映像メディア学科》

写真・映像メディア学科は、多様化する社会に貢献するため、豊かな想像力と行動力を基に最新の撮影技術や処理技術を用いて、様々な撮影現場への対応と作品表現を通して社会へ発信できる写真・映像メディア分野の専門家を養成する。

《ビジュアルデザイン学科》

ビジュアルデザイン学科は、社会の多様なビジュアルコミュニケーションに対応するため、グローバルな視野に立った編集力や伝達力を基にアナログやデジタル表現技術を用いて、社会へ貢献できるビジュアルデザイン分野の専門家を養成する。

《生活環境デザイン学科》

生活環境デザイン学科は、人間が生活を営む環境をより良くするため、バランスのとれた構力や造形力を基に伝統的・先端的な表現技術を用いて、豊かな生活に貢献できる生活環境デザイン分野の専門家を養成する。

《ソーシャルデザイン学科》

ソーシャルデザイン学科は、豊かな地域の発展に寄与するため、デザインの持つ情報発信力を基に IT 技術や企画技術

を用いて、地域や地域産業と積極的に連携していくソーシャルデザイン分野の専門家を養成する。

【学位の授与方針(ディプロマ・ポリシー)】

芸術学部では、理論と実践を兼ね備えた社会で活躍できるアーティスト、デザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者の育成を目指している。そのため、124単位以上を習得し、創造的活動と研究を通じてクリエイターや研究者・教育者に必要な能力を習得した者に対して学士(芸術)の学位を授与する。

《芸術表現学科》

多様化する社会において、アートを通じて文化の創造に貢献できる能力を習得した者に学位を授与する。

《写真・映像メディア学科》

多様化する今日の企業の要求に素早く対応し、作品を通じて常に自己を発信する能力を習得した者に学位を授与する。

《ビジュアルデザイン学科》

デザイナーに必要な感性を持ち、グラフィックデザインやビジュアルアートにおける知識を習得することによって、社会に寄与する力を習得した者に学位を授与する。

《生活環境デザイン学科》

多様化する社会において、工芸に関する知識、空間を演出する知識、モノ作りに関する知識と能力を習得し、商品や空間デザインを通じて、豊かな生活に貢献できる能力を習得した者に学位を授与する。

《ソーシャルデザイン学科》

情報に関する知識、地域ブランド構築のための企画力等の能力を習得し、地域文化の創造、地域や企業ブランド構築に貢献できる能力を習得した者に学位を授与する。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

社会と文化の創造に貢献できる人材を養成するために、芸術の各分野における理論と技能を兼ね備え、高い知性と豊かな感性を持つ専門能力の習得を目指している。具体的には「芸術に関する基盤的な知識」を活かす「論理的思考力」、「コミュニケーション力」、「創造力」、「表現力」、「実践力」の5つの能力を実践型の授業で習得させる。そのため、学部においては教養科目、外国語科目、キャリア科目、専門科目から構成された体系的な教育科目を構成しており、このことにより新しい時代の要請に応え、地域と人類社会の発展に寄与する有能な人材の育成を目指す。

《芸術表現学科》

芸術に関する基礎力を身に付けたうえで、絵画、立体造形、先端的なメディア芸術についての多様な専門知識と多種多様な技術・技法を学び、実践型の授業を通して5つの能力に加え芸術表現分野の専門家として必要な造形力や審美力を習得させる。そのため、体系的な教育科目を構成し、自由で人間性豊かな芸術を創造できる人材の育成を目指す。

《写真・映像メディア学科》

芸術に関する基礎力を身に付けたうえで、写真、映像メディアについての幅広い専門知識と最新の撮影技術・処理技術を学び、実践型の授業を通して5つの能力に加え写真・映像メディア分野の専門家として必要な想像力や行動力を習得させる。そのため、専門科目を主体とした幅広い教養と豊かな人間性を養うための基礎教育科目・外国語科目を体系的に履修できるよう編成し、高い知識と専門技術を有し、社会で活躍できる芸術系のスペシャリストの育成を目指す。

《ビジュアルデザイン学科》

芸術に関する基礎力を身に付けたうえで、グラフィックデザイン、イラストレーションデザインについての幅広い専門知識と多種多様な表現技術を学び、実践型の授業を通して5つの能力に加えビジュアルデザイン分野の専門家として必要な編集力や伝達力を習得させる。そのため、体系的な教育科目を構成し、グラフィックデザインやビジュアルアートに必要な表現力、企画力を有し、表現できる能力を有する人材の育成を目指す。

《生活環境デザイン学科》

芸術に関する基礎力を身に付けたうえで、工芸デザイン、プロダクトデザイン、空間演出デザインについての専門知識と多種多様な技術・技法を学び、実践型の授業を通して5つの能力に加え生活環境デザイン分野の専門家として必要な造形力や構成力を習得させる。そのため、体系的な教育科目を構成し、社会の実践の場で活躍できる人材の育成を目指す。

《ソーシャルデザイン学科》

芸術に関する基礎力を身に付けたうえで、情報デザイン、地域ブランド企画についての専門知識と調査・分析手法を学び、実践型の授業を通して5つの能力に加えソーシャルデザイン分野の専門家として必要な問題発見能力と解決提案能力を習得させる。そのため、体系的な教育科目を構成し、地域連携の核となるような人材の育成を目指す。

【入学者の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)】

芸術の分野で創造的活動を行う人材の育成と人間性豊かで国際的視野を持った人材を育成するために、次のような学生を受け入れる。(1)芸術分野に興味があり、創作意欲のある人 (2)好奇心を持ち、何事にも積極的に取り組む人 (3)客観的な視点で物事を判断でき、自己を発信できる人 (4)将来アーティストやデザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者を目指している人材を受け入れる。

《芸術表現学科》

芸術の分野で絵画や彫刻、メディア芸術等幅広い芸術領域に対して創作意欲をもち、積極的に取り組む人材を受け入れる。

《写真・映像メディア学科》

写真と映像はデジタル時代に入り、その技術は急速に進化している。常に最新の技術に興味を持ちながら新しい表現にチャレンジし、その芸術性や実用性について追究していきこうとする創作意欲の旺盛な人材を受け入れる。

《ビジュアルデザイン学科》

グラフィック、パッケージ、イラスト、キャラクター等に関心を持ち将来デザイナーやクリエイターを目指している人材を受け入れる。

《生活環境デザイン学科》

工芸、プロダクト、空間演出等のものづくり・演出に興味を持つチャレンジ意欲のある人材を受け入れる。

《ソーシャルデザイン学科》

情報という幅の広い技術や能力を必要とする分野に興味を持つ者。企画やデザインに興味を持ち、地域との連携に興味がある者等。それにより、地域や企業のブランド等の立案や活性化に興味のある人材を受け入れる。

【国際文化学部】

教育の目標は、急速にグローバル化が進展する 21 世紀の社会で活躍できる人材の育成である。少人数制クラスを基本として、国際文化学科・日本文化学科・臨床心理学科の共通科目、充実した外国語科目、創造力・指導力・コミュニケーション能力を養成する多彩なゼミナール系科目などを設けている。外国文化・日本文化・人間心理を中心として教養を身につけたうえで、専門的な知識を深く修得することを目指している。

《国際文化学科》

国際文化学科には、「アジア文化」、「欧米文化」および「英語コミュニケーション」の 3 コースがあり、高い語学能力と深い異文化理解をもって国際社会で活躍できる人材を育成している。

《日本文化学科》

日本文化学科には、「日本語日本文学」および「歴史・社会」の 2 コースがあり、日本の文学・歴史・社会についての総合的な知識をもとに、主体性・協調性・行動力をもって地域社会に貢献できる人材を育成している。

《臨床心理学科》

臨床心理学科には、「臨床心理」および「精神保健福祉」の 2 コースがあり、多くの体験型・参加型授業を通じてコミュニケーション力の向上を図り、心の問題に対し専門的援助ができる人材を育成している。

[学位の授与方針(ディプロマ・ポリシー)]

国際文化学科・日本文化学科・臨床心理学科のいずれの学科も、それぞれの分野で学んだ知見を踏まえて、グローバル社会で活躍できる人材を目指している。そのために、語学・文化・歴史・文学・思想・心理などについて、専門的に学修し、124単位以上を修得した者に学士(国際文化)の学位を授与する。

《国際文化学科》

優れた語学力と深い異文化理解をもって国際社会で活躍できるよう、コミュニケーション能力だけでなく、創造力や問題解決能力等も併せ持った有用な人材となることを目指す。

《日本文化学科》

日本の文学・歴史・社会についての総合的な知識をもとに主体性・協調性・行動力をもって地域社会に貢献できる人材となることを目指す。また、日本だけでなく、世界も視野に入れながら、豊かな学識を持ってグローバル社会で通用することを目指す。

《臨床心理学科》

心の問題に対して、専門的援助ができる人材を目指す。また、他者の心理を深く理解できるだけでなく、自己啓発も持続して行うことができる能力を養成する。

[教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)]

国際文化学部は、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目標に、少人数クラスを基本として、国際文化学科・日本文化学科・臨床心理学科の充実した専門科目を設置している。10 名程のゼミナールによりディスカッションやプレゼンテーションを実施し、企画力、自己表現力、論理的思考力を育成している。

《国際文化学科》

外国語能力を基礎として、アジア・欧米文化等を深く理解できるように教育を行っている。そのための徹底した語学指導のほか、少人数ゼミナールなどを通して国際社会に通用する実力を養成する。

《日本文化学科》

日本の文学・歴史・社会を中心とした研究を行い、日本について深く理解できるように教育を行っている。フィールドスタディなどで実際に現地を調査しながら、日本文化についての知識を現場感覚として身につける。

《臨床心理学科》

人々を取り巻く多彩な環境を理解したうえで、心の専門的援助ができるように教育を行っている。臨床心理学や精神保健福祉学について、現場を意識した専門教育を展開している。

[入学者の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)]

国際文化学部では、国際化・情報化が進む現代社会で活躍できる人材の育成を目指している。そのため、次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れる。

《国際文化学科》

(1) 英語の高度な運用能力を身につけることを望むだけでなく、英語以外の外国語習得にも意欲のある人 (2) アジアや欧米諸国の文化や歴史的背景や現代事情を詳しく学びたい人 (3) 外国語能力や外国文化の知識を活かして、広く国際社会で活躍したい人

《日本文化学科》

(1) 日本の文学・歴史に好奇心や探求心を持ち、教養を深め、心を豊かにしたい人 (2) 住みやすい社会の創造に関心を持ち、地域振興に役立つための素養を身につけたい人 (3) 日本語に関心を持ち、コミュニケーション能力を高め、情報発信力を身につけたい人 (4) 日本の政治の仕組みに関心を持ち、国際社会での日本の将来像を探索したい人

《臨床心理学科》

(1) 人と関わることへの関心が高く、様々な活動へ積極的に参加する意欲のある人 (2) 自己の感情状態に気づき、適切な言葉として表現することができる人 (3) 他者の心理状態への関心が高く、豊かな人間関係を築くことができる人 (4) 社会問題への関心が高く、その背景の理解や解決に取り組む意欲と行動力のある人

【情報科学部】

情報技術(I T)の進展は著しい。情報技術は社会を支え人間の能力を高めるためにある。これに応じて、情報科学部では、「社会と人間のための I T」を教育研究理念とし、「情報科学・情報技術の基礎を確実に身に付け、高い倫理観を持った職業人として社会に貢献する人材の育成」と「社会の仕組みや人間の特質を知って情報技術を適切に適用できる能力を持った人材の育成」を目指している。この目的を実現するため、情報科学部に 2 つのコース(情報技術応用コース、情報科学総合コース)を設置し、情報科学・情報技術の基礎から応用・実践までを系統的に学ぶカリキュラムを編成する。情報科学総合コースは日本技術者教育認定機構(J A B E E)によって「情報および情報関連分野」の技術者教育プログラムとして認定されている。

[学位の授与方針(ディプロマ・ポリシー)]

情報科学部における教育の具体的な到達目標は、情報科学・情報技術の基礎を確実に身につけ高い倫理観を持った職業人として社会に貢献できる能力と、社会の仕組みや人間の特質を知って情報技術を適切に適用できる能力を養成することである。これらの能力を身につけたかどうかを判定するため、基礎教育科目群、外国語科目群、専門科目群から所定の単位を含む総修得単位 124 単位の卒業要件を定め、この基準を満たした者に学士（情報科学）の学位を授与する。更に、情報科学総合コースの修了要件を満たした者には、卒業証書（学位記）に加えて「情報科学総合コース修了証」を授与する。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

情報科学部は、これからの情報社会を支える人材、特に、情報に対する倫理観や責任感を持ってこれからの情報技術の発展に貢献できる技術者の育成を目標に、基礎教育科目群、外国語科目群、専門科目群を体系的に履修できるようにしている。専門科目は、情報科学・情報技術の基礎を学ばせる「専門基礎科目」、計算機科学の基礎を学ばせる「計算機科学科目」、情報科学・情報技術および計算機科学の基礎を学んだ上で、特定の分野について学ばせる「専門展開科目」と「実践力育成科目」として構成し、情報技術者にとって必須である科目を必修科目として厳選し、基礎学力を深く身に付けることに重点をおいたカリキュラム編成にしている。また、システム開発ができるエンジニア、組込みシステムエンジニア、ネットワークエンジニア、WEB・CG デザインなどコンテンツ分野で活躍できるエンジニア、情報システム運用管理者、教員や情報科学研究者を目指す者にとって必要な専門科目を選択科目として配置し、履修モデルによって提示している。

【入学者の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)】

情報科学部では、社会を十分に理解し、社会に本当に必要な情報システムの設計・開発・運用が行える人材や、人間の能力を援助し、快適なヒューマンインタフェース環境を構築できる人材の育成を目指している。そのため、次のような学生を積極的に受け入れる。

(1)「情報」や「情報」に関連した事柄に興味・関心がある人 (2)情報科学、情報技術を学ぶ意欲のある人 (3)情報技術者としての能力を高め、IT 社会に貢献したい人 (4)IT によって社会やそこで暮らす人々と積極的に関わりたいとする人

別表第1

(一) 基礎教育科目

(1) 導入科目

基礎ゼミナール	2	基礎ゼミナール (プライマリーセミナー)	2	導入ゼミナール I	1	導入ゼミナール II	1	情報処理演習A	2
情報処理演習B	2								

(2) 実践科目

キャリア形成基礎論	2	キャリア開発論	2	キャリア形成戦略	2	実用国語 I (文章力)	2	実用国語 II (国語力)	2
実用国語 III (伝達力)	2	実用国語 IV (表現力)	2	数理的教養 I	2	数理的教養 II	2	数理的教養 III	2
九産大力	2	学生サポーター	2	学生ボランティア入門	2	実践キャリア学修A	2	実践キャリア学修B	2
実践キャリア演習A	2	実践キャリア演習B	2	実践力育成演習A	2	実践力育成演習B	2	課題解決演習A	2
課題解決演習B	2								

(3) 教養科目

日本の歴史	2	世界の歴史	2	法学	2	日本国憲法	2	現代の政治	2
倫理学	2	哲学の世界	2	文学の世界	2	心理学概説	2	文化人類学	2
科学・技術史	2	科学の世界	2	地理の世界	2	現代の経済	2	現代の経営	2
地学の世界	2	数学の世界	2	美学・美術史	2	音楽概論	2	アートスクール	2
世界の美術館	2	人権・同和問題	2	ジェンダーと社会	2	教養講座	2	総合講座A	2
総合講座B	2	総合講座C	2	総合講座D	2				

(4) 心と身体の健康科目

スポーツ科学演習	2	心の健康	2	健康学	2
----------	---	------	---	-----	---

(二) 外国語科目

Reading & Writing I	1	Reading & Writing II	1	Reading & Writing III	1	Reading & Writing IV	1	Reading & Writing V	1
Reading & Writing VI	1	Reading & Writing VII	1	Reading & Writing VIII	1	Listening & Speaking I	1	Listening & Speaking II	1
Listening & Speaking III	1	Listening & Speaking IV	1	Listening & Speaking V	1	Listening & Speaking VI	1	Listening & Speaking VII	1
Listening & Speaking VIII	1	Four Skills I	2	Four Skills II	2	Labo Training I	1	Labo Training II	1
Advanced Reading & Writing I	2	Advanced Reading & Writing II	2	Introduction to Online English	2	Professional Writing Skills	4	Introduction to Translation	4
Writing for Specific Purposes	2	English Expressions	2	Domestic Job Training	4	Overseas Job Training	4	Project I	2
Project II	2	ドイツ語 I	1	ドイツ語 II	1	ドイツ語 III	1	ドイツ語 IV	1
ドイツ語 V	1	ドイツ語 VI	1	ドイツ語 VII	1	ドイツ語 VIII	1	ドイツ語会話 I	1
ドイツ語会話 II	1	ドイツ語会話 III	1	ドイツ語会話 IV	1	ドイツ語会話 V	1	ドイツ語会話 VI	1
ドイツ語会話 VII	1	ドイツ語会話 VIII	1	フランス語 I	1	フランス語 II	1	フランス語 III	1
フランス語 IV	1	フランス語 V	1	フランス語 VI	1	フランス語 VII	1	フランス語 VIII	1
フランス語会話 I	1	フランス語会話 II	1	フランス語会話 III	1	フランス語会話 IV	1	フランス語会話 V	1
フランス語会話 VI	1	フランス語会話 VII	1	フランス語会話 VIII	1	韓国語 I	1	韓国語 II	1
韓国語 III	1	韓国語 IV	1	韓国語 V	1	韓国語 VI	1	韓国語 VII	1
韓国語 VIII	1	韓国語会話 I	1	韓国語会話 II	1	韓国語会話 III	1	韓国語会話 IV	1
韓国語会話 V	1	韓国語会話 VI	1	韓国語会話 VII	1	韓国語会話 VIII	1	中国語 I	1
中国語 II	1	中国語 III	1	中国語 IV	1	中国語 V	1	中国語 VI	1
中国語 VII	1	中国語 VIII	1	中国語会話 I	1	中国語会話 II	1	中国語会話 III	1
中国語会話 IV	1	中国語会話 V	1	中国語会話 VI	1	中国語会話 VII	1	中国語会話 VIII	1

別表第2

経済学部経済学科(昼間主コース、夜間主コース)の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 選択必修科目

ミクロ経済学入門	2	マクロ経済学入門	2	現代の経済学入門	2	経済史 I	2	経済史 II	2
社会思想史 I	2	社会思想史 II	2	統計学 I	2	統計学 II	2	経済数学入門 I	2
経済数学入門 II	2	経済数学入門 III	2	経済政策 I	2	経済政策 II	2	金融論 I	2
金融論 II	2	財政学 I	2	財政学 II	2	社会政策 I	2	社会政策 II	2
経済学史 I	2	経済学史 II	2	国民所得論 I	2	国民所得論 II	2		

(2) 選択科目

日本経済史 I	2	日本経済史 II	2	地域経済論 I	2	地域経済論 II	2	経済地理 I	2
経済地理 II	2	地域開発論 I	2	地域開発論 II	2	中小企業論 I	2	中小企業論 II	2
社会保障論 I	2	社会保障論 II	2	地方財政論 I	2	地方財政論 II	2	地方行政論 I	2
地方行政論 II	2	社会福祉論 I	2	社会福祉論 II	2	九州経済論 I	2	九州経済論 II	2
国際経済学 I	2	国際経済学 II	2	西洋経済史 I	2	西洋経済史 II	2	開発経済学 I	2
開発経済学 II	2	貿易論 I	2	貿易論 II	2	アジア経済論 I	2	アジア経済論 II	2
アメリカ経済論 I	2	アメリカ経済論 II	2	国際金融論 I	2	国際金融論 II	2	ヨーロッパ経済論 I	2
ヨーロッパ経済論 II	2	中国経済論 I	2	中国経済論 II	2	韓国経済論 I	2	韓国経済論 II	2
産業概説 I	2	産業概説 II	2	日本経済論 I	2	日本経済論 II	2	ミクロ経済学	2
マクロ経済学	2	経済原論 I	2	経済原論 II	2	政治経済学 I	2	政治経済学 II	2
経済数学 I	2	経済数学 II	2	経済思想史 I	2	経済思想史 II	2	産業組織論 I	2
産業組織論 II	2	銀行論 I	2	銀行論 II	2	環境経済学 I	2	環境経済学 II	2
労働経済学 I	2	労働経済学 II	2	租税論 I	2	租税論 II	2	経済変動論 I	2
経済変動論 II	2	農業経済論 I	2	農業経済論 II	2	公共経済学 I	2	公共経済学 II	2
計量経済学 I	2	計量経済学 II	2	情報経済学 I	2	情報経済学 II	2	数理経済学 I	2
数理経済学 II	2	進化経済学	2	社会経済学	2	現代資本主義論	2	初級簿記 I	2
初級簿記 II	2	経営学 I	2	経営学 II	2	商業簿記 I	2	商業簿記 II	2
工業簿記 I	2	工業簿記 II	2	マーケティング論 I	2	マーケティング論 II	2	会計学原理 I	2
会計学原理 II	2	原価計算論 I	2	原価計算論 II	2	経営管理論 I	2	経営管理論 II	2
憲法 I	2	憲法 II	2	民法 I	2	民法 II	2	商法 I	2
商法 II	2	行政法 I	2	行政法 II	2	政治学	2	行政学	2
経済法 I	2	経済法 II	2	労働法 I	2	労働法 II	2	国際法 I	2
国際法 II	2	刑法	2	情報処理入門	2	情報処理演習(文書作成)	2	情報処理演習(表計算)	2
情報処理論 I	2	情報処理論 II	2	情報処理演習 (プレゼンテーション)	2	情報処理演習 (ホームページ作成)	2	情報メディア論 I	2
情報メディア論 II	2	情報処理演習 (ビジネス実務)	2	実践企画演習 I	4	実践企画演習 II	4	実践企画演習 III	4
実践企画演習 IV	4	海外研修(事前学習)	2	海外研修(現地学習 I)	2	海外研修(現地学習 II)	2	海外研修(事後学習)	2
海外留学 I	2	海外留学 II	2	経済実態調査 I	2	経済実態調査 II	2	インターンシップ	2
キャリア基礎学修 I	2	キャリア基礎学修 II	2	キャリア特講 I	2	キャリア特講 II	2	キャリア特講 III	2
自然地理学	4	人文地理学	4	SPI基礎	2	SPI演習	2	キャリア演習(教職)	2
キャリア演習(金融機関)	2	キャリア演習(公務員)	2	ビジネス英語 I	2	ビジネス英語 II	2	地誌学	4
法学概論	4	哲学	4	心理学	4	ビジネス演習 I (ファイナンシャルプランナー取得)	2	ビジネス演習 II (証券外務員取得)	2
ビジネス英語 III	2	ビジネス英語 IV	2	日本史	4	外国史	4	職業指導	4
倫理学概論	2	外書講読 I	2	外書講読 II	2	外書講読 III	2	外書講読 IV	2
特殊講義 I	2	特殊講義 II	2	特殊講義 III	2	特殊講義 IV	2	特殊講義 V	2
特殊講義 VI	2	特殊講義 VII	2	特殊講義 VIII	2	特殊講義 IX	2	特殊講義 X	2
特殊講義 XI	2	特殊講義 XII	2	基礎ゼミナール I	2	基礎ゼミナール II	2	プレゼミナール	4
ゼミナール I	4	ゼミナール II	4	卒業論文ゼミナール	8				

(二) 留学生に関する科目

(1) 日本語

日本語初級Ⅰ	1	日本語初級Ⅱ	1	日本語初級Ⅲ	1	日本語初級Ⅳ	1	日本語中級Ⅰ	1
日本語中級Ⅱ	1	日本語中級Ⅲ	1	日本語中級Ⅳ	1	日本語上級Ⅰ	1	日本語上級Ⅱ	1
日本語上級Ⅲ	1	日本語上級Ⅳ	1						

(2) 日本事情

日本の歴史Ⅰ	2	日本の歴史Ⅱ	2	日本の文化Ⅰ	2	日本の文化Ⅱ	2	日本の政治経済Ⅰ	2
日本の政治経済Ⅱ	2	一般日本事情Ⅰ	2	一般日本事情Ⅱ	2				

(注) 留学生に関する科目は、昼間主コースだけの科目である。

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動の指導法	2	教育の方法・技術	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	社会科教育法	4
地理歴史科教育法	4	公民科教育法	4	商業科教育法	4	教科指導法研究Ⅰ(社会)	2	教科指導法研究Ⅰ (地理歴史)	2
教科指導法研究Ⅰ(公民)	2	教科指導法研究Ⅰ(商業)	2	教科指導法研究Ⅱ(社会)	2	学校発達心理学	2	同和教育論	2
教育社会学	2	教職特講	2						

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第3

商学部第一部の授業科目の種類及び単位数

(1) 商学科

(一) 専門科目

(イ) 選択必修科目

流通システム論	2	流通ビジネス論	2	マーケティング論	2	マーケティングマネジメント	2	マーケティングリサーチ	2
eコマース論	2	商業史	2	広告論	2	貿易論	2	交通論	2
金融論	2	保険論	2	ファイナンス論	2	財務会計の基礎	2	管理会計の基礎	2
経営学総論	2	経営史	2	経営管理論史	2	ミクロ経済学	2	マクロ経済学	2
現代と経済学	2								

(ロ) 選択科目

商学入門	2	マーケティング入門	2	ファイナンス入門	2	情報リテラシー入門	2	情報リテラシー演習	2
簿記入門	2	経営学入門	2	経済学入門	2	初級簿記	4	ファイナンシャル・プランニング	4
消費者行動論	2	国際消費者行動論	2	マーケティング戦略論	2	国際マーケティング論	2	マーケティング情報システム論	2
グリーンマーケティング	2	マーケティングコミュニケーション論	2	金融政策論	2	金融機関論	2	国際金融論	2
リスクマネジメント論	2	流通政策論	2	流通情報システム論	2	ロジスティクス論	2	近代流通史	2
日本商業史	2	国際ビジネスコミュニケーション論	2	証券市場論	2	外国為替論	2	ベンチャーファイナンス論	2
地域振興論	2	webシステムデザイン論	2	webシステム開発論	2	財務会計論	2	財務諸表論	2
税法会計	2	管理会計論	2	原価計算論	2	経営組織論	2	組織行動論	2
経営財務論	2	人的資源管理論	2	取引と法	2	企業組織と法	2	中小企業論	2
日本経営史	2	現代経営史	2	経営管理論	2	行政法	2	国際経済論	2
EU経済論	2	EU制度論	2	アジア経済論	2	産業経済論	2	地域経済学	2
大学入門	2	入門ゼミナール	2	留学生ゼミナール	6	ゼミナール I	4	ゼミナール II	4
ゼミナール III	4	卒業論文ゼミナール	8	文献講読 I	2	文献講読 II	2	プロジェクト入門	2
国内金融研修	2	地域振興プロジェクト演習	2	ソーシャルスキルワーク	4	広告制作論	2	広告制作演習	2
ブランドマネジメント	2	ビジネス入門	2	ビジネス特講 I (SPI)	2	ビジネス特講 II (職業意識)	2	ビジネス特講 III	2
ビジネス特講 IV	2	インターンシップ	2	キャリア開発プランニング	4	英検中級 I	2	英検中級 II	2
英検上級 I	2	英検上級 II	2	TOEIC I	2	TOEIC II	2	TOEIC III	2
商業簿記(日商2級) I	2	商業簿記(日商2級) II	2	工業簿記(日商2級) I	2	工業簿記(日商2級) II	2	税理士簿記 I	2
税理士簿記 II	2	特別講義 I	2	特別講義 II	2	特別講義 III	2	特別講義 IV	2
特別講義 V	2	特別講義 VI	2	特別講義 VII	2	特別講義 VIII	2	特別講義 IX	4
特別講義 X	4	特別講義 XI	1	特別講義 XII	1	○哲学	4	○心理学	4
○日本史	4	○外国史	4	○人文地理学	4	○自然地理学	4	○地誌学	4
○社会学	2	○政治学	2	○職業指導	4	○倫理学概論	2	○法学概論	4

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

日本語初級 I	1	日本語初級 II	1	日本語初級 III	1	日本語初級 IV	1	日本語中級 I	1
日本語中級 II	1	日本語中級 III	1	日本語中級 IV	1	日本語上級 I	1	日本語上級 II	1
日本語上級 III	1	日本語上級 IV	1						

(ロ) 日本事情

日本の歴史 I	2	日本の歴史 II	2	日本の文化 I	2	日本の文化 II	2	日本の政治経済 I	2
日本の政治経済 II	2	一般日本事情 I	2	一般日本事情 II	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動の指導法	2	教育の方法・技術	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習 I	2	教育実習 II	2	社会科教育法	4
地理歴史科教育法	4	公民科教育法	4	商業科教育法	4	教科指導法研究 I (社会)	2	教科指導法研究 I (地理歴史)	2
教科指導法研究 I (公民)	2	教科指導法研究 I (商業)	2	教科指導法研究 II (社会)	2	学校発達心理学	2	同和教育論	2
教育社会学	2	教職特講	2						

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

(2) 観光産業学科

(一) 専門科目

(イ) 必修科目

観光学入門	2	観光学基礎論	2
-------	---	--------	---

(ロ) 選択必修科目

観光経営論入門	2	ホスピタリティ入門	2	観光地理入門	2	異文化コミュニケーション論	2	レクリエーション概論	2
会計学基礎論	2	社会学基礎論	2	経済学基礎論	2	経営学基礎論	2	情報リテラシー	2
宿泊産業論	2	旅行業基礎論	2	ホスピタリティ実践論	2	サービス産業論	2	観光経営戦略論	2
観光産業論	2	観光心理学	2	観光地理学	2	観光経済論	2	観光調査法	2
観光文化論	2	観光政策論	2	マーケティング論	2	契約法	2	会社法	2
人権論	2	観光インターンシップ入門	2	ビジネス入門	2	ブレゼミナール	2	専門基礎ゼミナール	2

(ハ) 選択科目

レクリエーション実践論	2	レクリエーション産業論	2	ホテル経営論	2	旅行業経営論	2	ホスピタリティ・マネジメント	2
サービスマネジメント	2	航空事業論	2	スポーツツーリズム	2	コンベンション事業論	2	観光マーケティング論	2
観光人材開発論	2	観光情報システム論	2	観光行動論	2	観光メディア論	2	国内観光論	2
九州観光学	2	観光社会学	2	エコツーリズム論	2	国際観光論	2	観光プロデュース論	2
産業観光論	2	観光交通論	2	世界遺産論	2	観光と環境法	2	アジア観光論	2
アメリカ観光論	2	ヨーロッパ観光論	2	統計処理基礎	2	財務分析	2	情報産業論	2
情報管理論	2	行政法	2	コーポレート・ガバナンスと法	2	消費者行動論	2	リスクマネジメント論	2
国内観光研修A	2	国内観光研修B	2	国内観光研修C	2	アメリカ観光研修	4	ヨーロッパ観光研修	4
アジア観光研修A	2	アジア観光研修B	4	国外観光研修A	2	国外観光研修B	4	エアライン・キャリア開発	2
キャリア実践講座・初級	2	エアライン・オペレーション	2	旅行資格講座	2	キャリア実践講座・中級	2	観光インターンシップA	2
観光インターンシップB	2	観光インターンシップC	4	観光インターンシップD	6	TOEIC I	2	エアライン・イングリッシュ	2
TOEIC II	2	TOEIC III	2	観光英語 I	2	観光英語 II	2	観光英語 III	2
観光英語IV	2	観光韓国語 I	2	観光韓国語 II	2	観光韓国語 III	2	観光中国語 I	2
観光中国語 II	2	観光中国語 III	2	プロジェクト入門	2	観光地域事業論	2	日韓観光振興論	4
ソーシャルスキルワーク	4	観光振興プロジェクト演習	2	鉄道産業プロジェクト演習	2	広告制作論	2	広告制作演習	2
留学生ゼミナール	6	ゼミナール I	4	ゼミナール II	4	ゼミナール III	4	卒業論文ゼミナール	8
特別講義 I	2	特別講義 II	2	特別講義 III	2	特別講義 IV	2	特別講義 V	2
特別講義 VI	2	特別講義 VII	2	特別講義 VIII	2	特別講義 IX	4	特別講義 X	4
特別講義 XI	1	特別講義 XII	1	○哲学	4	○心理学	4	○日本史	4
○外国史	4	○人文地理学	4	○自然地理学	4	○地誌学	4	○社会学	2
○政治学	2	○職業指導	4	○倫理学概論	2	○法学概論	4		

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

日本語初級 I	1	日本語初級 II	1	日本語初級 III	1	日本語初級 IV	1	日本語中級 I	1
日本語中級 II	1	日本語中級 III	1	日本語中級 IV	1	日本語上級 I	1	日本語上級 II	1
日本語上級 III	1	日本語上級 IV	1						

(ロ) 日本事情

日本の歴史 I	2	日本の歴史 II	2	日本の文化 I	2	日本の文化 II	2	日本の政治経済 I	2
日本の政治経済 II	2	一般日本事情 I	2	一般日本事情 II	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動の指導法	2	教育の方法・技術	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習 I	2	教育実習 II	2	社会科教育法	4
地理歴史科教育法	4	公民科教育法	4	商業科教育法	4	教科指導法研究 I (社会)	2	教科指導法研究 I (地理歴史)	2
教科指導法研究 I (公民)	2	教科指導法研究 I (商業)	2	教科指導法研究 II (社会)	2	学校発達心理学	2	同和教育論	2
教育社会学	2	教職特講	2						

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第4

商学部第二部商学科の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(イ) 選択科目

商学基礎論	2	マーケティング基礎論	2	経営学入門	2	初級簿記Ⅰ	2	初級簿記Ⅱ	2
経済学入門	2	情報リテラシー	2	情報リテラシー演習	2	流通システム論	2	実践流通システム論	2
マーケティング論	2	実践マーケティング論	2	広告の基礎	2	貿易の基礎	2	貿易論	2
保険論	2	ファイナンス論	2	商業史	2	経営学総論	2	経営史	2
経営管理論史	2	人的資源管理の基礎	2	会計学総論Ⅰ	2	会計学総論Ⅱ	2	中級簿記Ⅰ	2
中級簿記Ⅱ	2	工業簿記Ⅰ	2	工業簿記Ⅱ	2	ミクロ経済学	2	マクロ経済学	2
現代日本経済史	2	現代と経済学	2	企業組織と法	2	取引と法	2	情報ネットワーク基礎論	2
マーケティング戦略論	2	マーケティングリサーチ	2	国際マーケティング論	2	流通政策論	2	金融論	2
応用金融論	2	日本商業史	2	消費者行動論	2	国際ビジネスコミュニケーション論	2	交通政策論	2
国際金融論	2	応用国際金融論	2	リスクマネジメント論	2	地域振興論	2	経営組織論	2
組織行動論	2	経営財務論	2	人的資源管理論	2	中小企業経営論	2	現代経営史	2
経営管理論	2	財務諸表論Ⅰ	2	財務諸表論Ⅱ	2	管理会計論Ⅰ	2	管理会計論Ⅱ	2
原価計算論Ⅰ	2	原価計算論Ⅱ	2	税務会計論Ⅰ	2	税務会計論Ⅱ	2	産業経済論	2
EU経済論	2	日本経済論	2	アジア経済論	2	世界経済論	2	社会保障法	2
行政法	2	流通情報システム論	2	マーケティング情報システム論	2	入門ゼミナール	2	ゼミナールⅠ	4
特別ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4	ゼミナールⅢ	4	卒業論文ゼミナール	8	外書講読	2
プロジェクト入門	2	ビジネス入門	2	ケースメソッド入門	2	ビジネス特講Ⅰ(SPI)	2	ビジネス特講Ⅱ(職業意識)	2
ビジネス特講Ⅲ	2	ビジネス特講Ⅳ	2	キャリア開発プランニング	4	特別講義Ⅰ	2	特別講義Ⅱ	2
特別講義Ⅲ	2	特別講義Ⅳ	2	特別講義Ⅴ	2	特別講義Ⅵ	2	特別講義Ⅶ	2
特別講義Ⅷ	2	○哲学	4	○心理学	4	○日本史	4	○外国史	4
○人文地理学	4	○自然地理学	4	○地誌学	4	○社会学	2	○政治学	2
○職業指導	4	○倫理学概論	2	○法学概論	4				

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(二) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動の指導法	2	教育の方法・技術	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	社会科教育法	4
地理歴史科教育法	4	公民科教育法	4	商業科教育法	4	教科指導法研究Ⅰ(社会)	2	教科指導法研究Ⅰ(地理歴史)	2
教科指導法研究Ⅰ(公民)	2	教科指導法研究Ⅰ(商業)	2	教科指導法研究Ⅱ(社会)	2	学校発達心理学	2	同和教育論	2
教育社会学	2	教職特講	2						

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第5

経営学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 国際経営学科

(イ) 選択必修科目

経営学総論A	2	経営学総論B	2	現代企業事情	2	企業論	2	経営管理総論A	2
経営史	2	マーケティング論A	2	簿記原理	4	会計学基礎	2	パソコン演習	2
国際経営論A	2	民法B(契約法)	2						

(ロ) 選択科目

経営管理総論B	2	マーケティング論B	2	経営組織論	2	経営戦略論	2	人的資源管理論A	2
人的資源管理論B	2	財務管理論	2	企業倫理学	2	生産管理論A	2	中小企業論	2
日本経営論	2	会計講座入門Ⅰ	2	会計講座入門Ⅱ	2	会計講座基礎Ⅰ	2	会計講座基礎Ⅱ	2
会計講座応用Ⅰ	2	会計講座応用Ⅱ	2	会計講座発展Ⅰ	2	会計講座発展Ⅱ	2	原価計算論基礎	2
会计学	2	会計演習ⅢA	2	会計演習ⅢB	2	会計演習Ⅳ(含む論文)	8	原価計算論	2
財務諸表論	2	管理会計論	2	税務会計	2	会計情報システム	2	国際会計	2
基礎数学	2	経済学概論	2	産業概論	2	記述統計	2	数学A	2
数学B	2	ミクロ経済学	2	マクロ経済学	2	民法A	2	商法A	2
商法B	2	労働法A	2	多国籍企業論	2	経済政策	2	国際経済論	2
国際経営論B	2	国際関係論	2	在外研修	4	欧米経済事情	2	国際経営戦略論	2
人材育成論A	2	人材育成論B	2	サービスビジネス入門	2	サービスビジネス論	2	サービスビジネス特殊講義A	2
サービスビジネス特殊講義B	2	国際ビジネス演習ⅠA	4	国際ビジネス演習ⅠB	4	国際ビジネス演習ⅡA	4	国際ビジネス演習ⅡB	4
国際ビジネス演習ⅢA	4	国際ビジネス演習ⅢB	4	国際ビジネス演習ⅣA	4	国際ビジネス演習ⅣB	4	経営学特別演習ⅠA	2
経営学特別演習ⅠB	2	経営学特別演習ⅡA	2	経営学特別演習ⅡB	2	経営学特別演習ⅢA	2	経営学特別演習ⅢB	2
経営学特別演習ⅣA	2	経営学特別演習ⅣB	2	ビジネス英語ⅠA	1	ビジネス英語ⅠB	1	ビジネス英語ⅠC	1
ビジネス英語ⅠD	1	ビジネス中国語ⅠA	1	ビジネス中国語ⅠB	1	ビジネス中国語ⅠC	1	ビジネス中国語ⅠD	1
ビジネス英語ⅡA	1	ビジネス英語ⅡB	1	ビジネス英語ⅡC	1	ビジネス英語ⅡD	1	ビジネス中国語ⅡA	1
ビジネス中国語ⅡB	1	ビジネス中国語ⅡC	1	ビジネス中国語ⅡD	1	ビジネス英語ⅢA	1	ビジネス英語ⅢB	1
ビジネス中国語ⅢA	1	ビジネス中国語ⅢB	1	海外ビジネス事情	2	欧米ビジネス特殊講義A	2	欧米ビジネス特殊講義B	2
アジアビジネス特殊講義A	2	アジアビジネス特殊講義B	2	表計算演習	2	デジタル・プレゼンテーション	2	経営学特講ⅠA	2
経営学特講ⅠB	2	経営学特講ⅠC	2	経営学特講ⅠD	2	経営学特講ⅡA	2	経営学特講ⅡB	2
経営学特講ⅡC	2	経営学特講ⅡD	2	経営学特講ⅢA	2	経営学特講ⅢB	2	経営学特講ⅢC	2
経営学特講ⅢD	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡA	2	ゼミナールⅡB	2	ゼミナールⅢA	2
ゼミナールⅢB	2	ゼミナールⅣ(含む論文)	8	ゼミナール・サポーター	2	○職業指導	4		

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(2) 産業経営学科

(イ) 選択必修科目

経営学総論A	2	経営学総論B	2	経営管理総論A	2	経営管理総論B	2	マーケティング論A	2
パソコン演習	2	簿記原理	4	会計学基礎	2	記述統計	2	企業論	2
企業者史	2	情報システム論	2						

(ロ) 選択科目

システム論	2	生産管理論A	2	生産管理論B	2	企業倫理学	2	経営工学	2
マーケティング論B	2	経営組織論	2	経営戦略論	2	人的資源管理論A	2	人的資源管理論B	2
生産システム論	2	オペレーションズ・リサーチ	2	販売システム論	2	財務管理論	2	中小企業論	2
ベンチャービジネス論	2	人材育成論A	2	人材育成論B	2	会計講座入門Ⅰ	2	会計講座入門Ⅱ	2
会計講座基礎Ⅰ	2	会計講座基礎Ⅱ	2	会計講座応用Ⅰ	2	会計講座応用Ⅱ	2	会計講座発展Ⅰ	2
会計講座発展Ⅱ	2	国際会計	2	原価計算論基礎	2	会計学	2	会計演習ⅢA	2
会計演習ⅢB	2	会計演習Ⅳ(含む論文)	8	事業開発演習ⅠA	4	事業開発演習ⅠB	4	事業開発演習ⅡA	4
事業開発演習ⅡB	4	事業開発演習ⅢA	4	事業開発演習ⅢB	4	事業開発演習ⅣA	4	事業開発演習ⅣB	4
財務諸表論	2	原価計算論	2	管理会計論	2	税務会計	2	会計情報システム	2
基礎数学	2	経済学概論	2	産業概論	2	数学A	2	数学B	2
ミクロ経済学	2	マクロ経済学	2	民法A	2	民法B(契約法)	2	推測統計	2
経営数学	2	労働法A	2	労働法B	2	経済政策	2	商法A	2
商法B	2	ゲーム理論	2	知的財産法	2	情報産業論	2	コンピュータ概論	2
情報ネットワーク	2	表計算演習	2	情報システム設計	2	経営情報学	2	デジタル・プレゼンテーション	2
インターネット情報学	2	メディア論	2	データベース論	2	情報システム設計演習	2	情報管理論	2
シミュレーション論	2	コンピュータ総合演習	2	情報倫理	2	データベース演習	2	マルチメディア論	2
経営情報システム論	2	マルチメディア演習	2	システム監査	2	経営学特講ⅠA	2	経営学特講ⅠB	2
経営学特講ⅠC	2	経営学特講ⅠD	2	経営学特講ⅡA	2	経営学特講ⅡB	2	経営学特講ⅡC	2
経営学特講ⅡD	2	経営学特講ⅢA	2	経営学特講ⅢB	2	経営学特講ⅢC	2	経営学特講ⅢD	2
経営学特別演習ⅠA	2	経営学特別演習ⅠB	2	経営学特別演習ⅡA	2	経営学特別演習ⅡB	2	経営学特別演習ⅢA	2
経営学特別演習ⅢB	2	経営学特別演習ⅣA	2	経営学特別演習ⅣB	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡA	2
ゼミナールⅡB	2	ゼミナールⅢA	2	ゼミナールⅢB	2	ゼミナールⅣ(含む論文)	8	情報と職業	2
ゼミナール・サポーター	2	○職業指導	4						

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

日本語初級Ⅰ	1	日本語初級Ⅱ	1	日本語初級Ⅲ	1	日本語初級Ⅳ	1	日本語中級Ⅰ	1
日本語中級Ⅱ	1	日本語中級Ⅲ	1	日本語中級Ⅳ	1	日本語上級Ⅰ	1	日本語上級Ⅱ	1
日本語上級Ⅲ	1	日本語上級Ⅳ	1						

(ロ) 日本事情

日本の歴史Ⅰ	2	日本の歴史Ⅱ	2	日本の文化Ⅰ	2	日本の文化Ⅱ	2	日本の政治経済Ⅰ	2
日本の政治経済Ⅱ	2	一般日本事情Ⅰ	2	一般日本事情Ⅱ	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	教育課程論	2
特別活動の指導法	2	教育の方法・技術	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2	教職実践演習(中・高)	2
教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	商業科教育法	4	情報科教育法	4	教科指導法研究Ⅰ(商業)	2
教科指導法研究Ⅰ(情報)	2	学校発達心理学	2	同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2
道徳教育論	2								

本表に掲げる授業科目は都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第6

工学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 機械工学科

(イ) 必修科目

機械材料	2	材料力学 I	2	機械製図 I	2	機械製図 II	2	コンピュータリテラシー	2
機械工学概論	2	基礎数学	2	基礎物理	2	線形代数学	2	微積分学 I	2
微積分学 II	2	物理実験	2	工業力学	2	材料力学 II	2	機械力学	2
メカトロニクス	2	機械工作実習 I	2	機械工作実習 II	2	機械工作法 I	2	流体力学	2
熱力学	2	機械CAD	2	機械工学実験 I	2	微分方程式	2	機械設計 I	2
設計製図	2	機械工学実験 II	2	キャリア開発演習	2	卒業研究	6		

(ロ) 選択科目

図学	2	解析幾何学	2	微積分学演習	2	線形代数学演習	2	応用機械力学	2
機械工作法 II	2	応用流体力学	2	流体力学演習	2	応用熱力学	2	熱力学演習	2
機構学	2	プログラミング	2	ラプラス変換	2	物理学	2	工業数学	2
応用微積分学	2	現代物理学	2	材料強度学	2	制御工学	2	モータ制御	2
機械計測	2	工作機械	2	ものづくり実習	2	エンジンシステム	2	伝熱工学	2
自動車工学	2	蒸気工学	2	機械設計 II	2	機械設計情報演習	2	技術者倫理	2
インターンシップ	2	エンジニアリング演習	2	工業経営	2	プロダクトデザイン演習	2	機械技術英語	2
確率統計	2	技術プレゼンテーション演習	2	○職業指導	4	○現代代数学	4	○数理論理学	2
○微分幾何学	4	○位相幾何学	4	○初等幾何学	2	○位相解析学	4	○関数方程式	2
○数値計算法	2	○数理統計学	4	○確率論	2				

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(2) 電気情報工学科

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	情報技術基礎演習	2	電気情報工学基礎	2	微積分学 I	2
線形代数学 I	2	電気情報数学	2	プログラミング I	2	電気回路 I	2	電気情報工学導入演習	2
論理回路	2	電子回路 I	2	電気回路 II	2	電磁気学 I	2	電子物性 I	2
電気情報基礎実験 I	2	システム工学 I	2	電磁気学 II	2	電気計測	2	制御工学 I	2
電子デバイス工学 I	2	電気エネルギー概論	2	通信理論	2	電気情報基礎実験 II	2	システム工学 II	2
卒業研究	8								

(ロ) 選択必修科目

電気エネルギー工学実験	2	通信システム工学実験	2	電気情報工学応用実験	2	電気情報工学実験	2
-------------	---	------------	---	------------	---	----------	---

(ハ) 選択科目

技術者倫理	2	物理実験	2	微積分学 II	2	微積分学 III	2	線形代数学 II	2
物理学 I	2	微分方程式	2	確率・統計	2	物理学 II	2	プログラミング II	2
数値計算法	2	コンピュータ概論	2	電子回路 II	2	電気回路 III	2	技術英語	2
シミュレーション工学	2	電磁気学 III	2	電子計測	2	制御工学 II	2	電子物性 II	2
電気機器 I	2	電力発生変換工学 I	2	電力システム工学 I	2	高電圧工学	2	電気CAD	2
通信システム工学 I	2	デジタル信号処理	2	デジタル回路	2	コンピュータ工学	2	システム工学演習	2
インターンシップ	2	電気情報工学演習	2	電子デバイス工学 II	2	電気機器 II	2	電力発生変換工学 II	2
電力システム工学 II	2	パワーエレクトロニクス	2	電気法規及び施設管理	2	電磁波工学	2	通信システム工学 II	2
情報通信工学	2	情報ネットワーク	2	マイクロプロセッサ応用	2	通信法規及び施設管理	2	情報と職業	2
マルチメディア	2	○職業指導	4	○現代代数学	4	○数理論理学	2	○微分幾何学	4
○位相幾何学	4	○初等幾何学	2	○位相解析学	4	○関数方程式	2	○数理統計学	4
○確率論	2								

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(3) 物質生命化学科

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎化学	2	基礎生物学	2	無機化学 I	2	有機化学 I	2
情報化学 I	2	物質生命環境導入実験 (コンピュータ活用を含む)	2	環境科学 I	2	分析化学 I	2	物理化学 I	2
微生物学 I	2	生物化学 I	2	情報化学 II	2	化学実験 (コンピュータ活用を含む)	2	生物実験 (コンピュータ活用を含む)	2
卒業研究	8								

(ロ) 選択必修科目

無機化学 II	2	有機化学 II	2	物理化学 II	2	分析化学 II	2	栄養化学 I	2
身体の構造と機能 I	2	食品化学 I	2	微生物学 II	2	生物化学 II	2	環境科学 II	2
無機化学 III	2	物理化学 III	2	有機化学 III	2	身体の構造と機能 II	2	遺伝子工学	2
応用生物科学	2	機器分析	2	水質環境化学	2	環境生態学	2	応用化学実験 (コンピュータ活用を含む)	2
応用生物実験 (コンピュータ活用を含む)	2								

(ハ) 選択科目

生物学	2	地球科学 I	2	地球科学 II	2	基礎物理	2	物理学 I	2
電気化学	2	化学工学	2	高分子化学 I	2	栄養化学 II	2	食品化学 II	2
分子生物科学	2	化学数学	2	地球科学実験 (コンピュータ活用を含む)	2	物理学 II	2	微積分学	2
物理実験 (コンピュータ活用を含む)	2	物理化学 IV	2	有機機能材料	2	無機機能材料	2	高分子化学 II	2
生体材料化学	2	食品製造学	2	微生物学 III	2	薬学 I	2	薬学 II	2
インターンシップ	2	科学英語	2	技術者倫理	2	物質生命化学ゼミナール	2	火薬工学	2
○職業指導	4								

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(4) 都市基盤デザイン工学科

(イ) 必修科目

都市基盤デザイン概論	2	基礎情報処理	2	基礎数学	2	基礎物理	2	土木数学	2
土木力学	2	技術英語	2	基礎測量学	2	基礎環境学	2	基礎測量学実習	2
構造力学 I	2	地盤工学 I	2	水理学 I	2	建設材料工学	2	構造力学演習 I	2
地盤工学演習 I	2	水理学演習 I	2	まちづくり学	2	建設材料実験	2	建設CAD演習	2
景観デザイン	2	都市基盤施工学	2	コンクリート構造工学 I	2	環境水理実験	2	応用ゼミナール	2
技術者倫理	2	卒業研究	8						

(ロ) 選択科目

植物学	2	情報処理演習	2	建築計画	2	応用測量学	2	建設材料工学演習	2
構造力学 II	2	地盤工学 II	2	水理学 II	2	生態学	2	建築一般構造	2
まちづくり学演習	2	建築設計製図	2	建築環境学	2	応用生態学	2	河川工学	2
緑化工学	2	応用建設CAD演習	2	植物生態学演習	2	インターンシップ	2	構造力学演習 II	2
地盤工学演習 II	2	水理学演習 II	2	景観デザイン演習	2	生態学実習	2	環境法規	2
造園学	2	道路工学	2	建築設備	2	建築施工	2	都市防災学	2
土木デザイン実習	2	水環境工学	2	土木統計学	2	ウォーターフロント工学	2	コンクリート構造工学 II	2
橋梁工学	2	造園学演習	2	建築法規	2	建設積算	2	構造力学 III	2
建築デザイン	2	工業爆薬学	2	施工管理学	2	維持管理工学	2	建築デザイン実習	2
○職業指導	4								

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(5) 建築学科

(イ) 必修科目

基礎数学	2	基礎物理	2	建築数学 I	2	物理	2	物理演習	2
建築工学基礎	2	情報処理入門	2	住宅計画	2	建築製図実習	2	西洋建築史	2
日本建築史	2	熱環境計画	2	建築力学入門	2	建築材料	2	建築数学 II	2
CAD演習	2	住宅設計基礎実習	2	施設計画	2	住宅設計	2	空気環境計画	2
建築設備計画	2	建築力学 I	2	建築力学 II	2	建築構法	2	防災工学	2
鉄筋コンクリート構造	2	建築汎論 I	2	建築汎論 II	2	都市計画	2	居住環境設計	2
建築デザイン製図	2	鉄骨構造	2	建築施工 I	2	建築学特論 I	2	建築学特論 II	2
技術者倫理	2	建築法規	2	卒業研究	6				

(ロ) 選択科目

建築デザイン	2	建築音響計画	2	建築力学 I 演習	2	建築力学 II 演習	2	都市デザイン	2
保存修景計画	2	建築設備設計	2	建築環境工学演習	2	建築環境工学実験	2	構造設計法	2
建築基礎構造	2	地震工学	2	建築施工 II	2	材料構造実験	2	建築実務実習	2
技術英語	2	○職業指導	4						

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(6) 住居・インテリア設計学科

(イ) 必修科目

プロゼミナール	2	基礎数学	2	基礎物理	2	住居概論	2	住居・インテリア史	2
住宅構法計画	2	情報処理入門	2	インテリア概論	2	住宅計画	2	住居環境	2
設計製図実習	2	福祉住環境設計論	2	住居と構造	2	住居・インテリア設計基礎実習	2	CAD実習	2
建築材料	2	力学入門	2	住宅設計実習	2	ワークショップ	2	建築施工	2
住居・インテリア特論	2	オフィス・ショップ設計論	2	建築力学Ⅰ	2	インテリア設計実習	2	保存修景計画	2
建築法規	2	卒業設計	6						

(ロ) 選択科目

環境化学入門	2	地球環境学	2	生態学	2	西洋建築史	2	住居学実習	2
日本建築史	2	空気環境計画	2	CG実習	2	施設計画	2	建築音響計画	2
防災工学	2	建築デザイン	2	建築設備計画	2	技術者倫理	2	木造建築論	2
インターンシップ	2	都市計画	2	都市デザイン	2	エレメント設計論	2	オフィス・ショップ設計実習	2
鉄筋コンクリート構造	2	建築力学Ⅱ	2	ファシリティ・マネジメント	2	住宅実施設計	2	デザインコンペ	2
鉄骨構造	2	○職業指導	4						

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(7) バイオロボティクス学科

(イ) 必修科目

バイオマテリアル	2	生体解剖学概論	2	住環境メカトロ技術	2	図学	2	ロボット製図	2
ロボット工作	2	線形代数学	2	微積分学Ⅰ	2	解析幾何学	2	微積分学Ⅱ	2
バイオロボティクス技術研修	2	プログラミング	2	基礎数学	2	基礎物理	2	基礎物理実験	2
工業力学	2	生体材料力学Ⅰ	2	生体機能学概論	2	医用機器設計	2	医用機器設計製図Ⅰ	2
医用機器設計製図Ⅱ	2	ロボット工作実習	2	ロボティクス	2	センサー工学	2	ロボティクス演習	2
計算機工学	2	電気工学概論	2	電子工学概論	2	分子生体工学	2	ME総論	2
制御工学Ⅰ	2	メカトロニクス	2	計算機システム	2	計算機システム演習	2	バイオロボティクス実験Ⅰ	2
バイオロボティクス実験Ⅱ	2	研究計画マネジメント実習	2	卒業研究	8				

(ロ) 選択科目

新技術開発史	2	化学Ⅰ	2	地球生物学概論	2	代数学演習	2	微積分学Ⅰ演習	2
化学Ⅱ	2	生物学概論	2	生体材料力学Ⅱ	2	生体流体工学	2	情報端末管理演習	2
通信理論	2	技術者倫理	2	工業数学	2	応用物理実験	2	物理学	2
微分方程式	2	プログラミング演習	2	微分方程式演習	2	生体材料力学演習	2	生体熱工学	2
人間環境学	2	ロボット設計基礎	2	ロボット設計	2	制御工学Ⅱ	2	シミュレーション工学	2
情報ネットワーク	2	マイクロプロセッサ応用	2	言語処理	2	情報通信工学	2	情報と職業	2
インターンシップ	2	確率統計	2	機械技術英語	2	初等幾何学	2	マルチメディア技術概論	2

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

日本語初級Ⅰ	1	日本語初級Ⅱ	1	日本語初級Ⅲ	1	日本語初級Ⅳ	1	日本語中級Ⅰ	1
日本語中級Ⅱ	1	日本語中級Ⅲ	1	日本語中級Ⅳ	1	日本語上級Ⅰ	1	日本語上級Ⅱ	1
日本語上級Ⅲ	1	日本語上級Ⅳ	1						

(ロ) 日本事情

日本の歴史Ⅰ	2	日本の歴史Ⅱ	2	日本の文化Ⅰ	2	日本の文化Ⅱ	2	日本の政治経済Ⅰ	2
日本の政治経済Ⅱ	2	一般日本事情Ⅰ	2	一般日本事情Ⅱ	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動の指導法	2	教育の方法・技術	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	数学科教育法	4
理科教育法	4	工業科教育法	4	情報科教育法	4	教科指導法研究Ⅰ(数学)	2	教科指導法研究Ⅰ(理科)	2
教科指導法研究Ⅰ(工業)	2	教科指導法研究Ⅰ(情報)	2	教科指導法研究Ⅱ(数学)	2	教科指導法研究Ⅱ(理科)	2	学校発達心理学	2
同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2				

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第7

芸術学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 芸術表現学科

○絵画専攻

(イ) 必修科目

コンピュータ基礎演習	2	デッサン	2	日本美術史	2	西洋美術史	2	東洋美術史	2
芸術表現演習	2	絵画概論	2	日本画基礎	2	版画基礎	2	洋画基礎	2
絵画 I	4	絵画 II	4	絵画 III	4	絵画 IV	4	絵画表現実習 IV	4
絵画表現実習 V	4	絵画表現実習 VI	4	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4		

(ロ) 選択必修科目

平面構成	2	立体構成	2	キャリア開発演習 A	2	塑造演習	2	写真演習	2
工芸基礎演習	2	ドローイング基礎実習	2	版画基礎実習	2	版画実習	2	西洋絵画史	2
Cultural Studies of Cool Japan	2	日本画実習	2	デッサン実習	2	絵画表現実習 I	4	ドローイング実習	2
絵画表現実習 II	4	絵画表現実習 III	4	材料実習	2				

(ハ) 選択科目

美術概論	2	色彩学	2	QUEST演習 A	2	学外演習	2	QUEST演習 B	2
キャリア開発演習 B	2	キャリア開発演習 C	2	QUEST演習 C	2	インターンシップ	2	デッサン基礎	2
絵画演習	2	映像芸術表現論	2	現代美術論	2	美術解剖学	2	現代美術演習	2
立体造形概論	2	メディア芸術概論	2	工芸デザイン論	2	図学製図基礎演習	2	グラフィックデザイン	2
デジタルペイント	2	ベーシックモーション	2	メディア芸術論	2	モザイク	2	キャラクターオブジェ基礎実習	2
アニメーション芸術論	2	工芸史	2	マンガ芸術論	2	フィギュア演習	2	西洋彫刻史	2
エンターテイメント論	2	インスタレーション実習	2	プロダクトデザイン基礎演習	2	ミクストメディア演習	2		

○立体造形専攻

(イ) 必修科目

コンピュータ基礎演習	2	デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	日本美術史	2
西洋美術史	2	芸術表現演習	2	塑造演習	2	立体造形概論	2	キャラクターオブジェ基礎実習	2
フィギュア演習	2	ミクストメディア演習	2	テラコッタ実習 I	2	ペーパークラフト実習	2	塑造実習 I	2
フィギュア実習	2	木彫表現基礎実習	2	スチロールワーク演習 I	2	スチロールワーク演習 II	2	FRP造形演習	2
総合立体造形実習 I	4	総合立体造形実習 II	4	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4		

(ロ) 選択必修科目

色彩学	2	現代美術論	2	美術解剖学	2	写真演習	2	インスタレーション実習	2
モデリング基礎演習	2	立体造形基礎演習	2	テラコッタ実習 II	2	溶接実習 I	2	キャラクターオブジェ実習	2
溶接実習 II	2	塑造実習 II	2	現代木彫表現実習	2	文化財科学演習	2	文化財保存論	2

(ハ) 選択科目

美術概論	2	東洋美術史	2	QUEST演習 A	2	学外演習	2	キャリア開発演習 A	2
QUEST演習 B	2	キャリア開発演習 B	2	キャリア開発演習 C	2	QUEST演習 C	2	インターンシップ	2
デッサン基礎	2	絵画演習	2	映像芸術表現論	2	現代美術演習	2	絵画概論	2
メディア芸術概論	2	工芸デザイン論	2	工芸基礎演習	2	図学製図基礎演習	2	グラフィックデザイン	2
デジタルペイント	2	ベーシックモーション	2	メディア芸術論	2	モザイク	2	ドローイング基礎実習	2
版画基礎実習	2	アニメーション芸術論	2	工芸史	2	版画実習	2	西洋絵画史	2
西洋彫刻史	2	エンターテイメント論	2	Cultural Studies of Cool Japan	2	プロダクトデザイン基礎演習	2	材料学	2

○メディア芸術専攻

(イ) 必修科目

コンピュータ基礎演習	2	デッサン	2	芸術表現演習	2	映像芸術表現論	2	メディア芸術概論	2
グラフィックデザイン	2	デジタルペイント	2	ベーシックモーション	2	メディア芸術論	2	アニメーション芸術論	2
マンガ芸術論	2	エンターテイメント論	2	メディア芸術実習 A I	2	メディア芸術実習 B I	2	メディア芸術実習 C I	2
メディア芸術実習 D I	2	サウンドアート演習	2	企画ストーリー演習	2	メディア芸術演習 I	4	メディア芸術演習 II	4
メディア芸術特別演習	2	メディア芸術特別論	2	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4		

(ロ) 選択必修科目

平面構成	2	立体構成	2	色彩学	2	Cultural Studies of Cool Japan	2	インスタレーション実習	2
視覚心理学	2	メディア芸術実習 A II	2	メディア芸術実習 B II	2	メディア芸術実習 C II	2	メディア芸術実習 D II	2
アニメーション設計制作実習	2	エンターテイメント設計制作実習	2	マンガ設計制作実習	2	映像芸術設計制作実習	2	Webデザイン実習	2
ゲーム設計制作実習	2	サウンドアート実習	2	意匠・商標法	2				

(ハ) 選択科目

美術概論	2	日本美術史	2	西洋美術史	2	東洋美術史	2	QUEST演習 A	2
学外演習	2	キャリア開発演習 A	2	QUEST演習 B	2	キャリア開発演習 B	2	キャリア開発演習 C	2
QUEST演習 C	2	インターンシップ	2	デッサン基礎	2	絵画演習	2	塑造演習	2
現代美術論	2	美術解剖学	2	写真演習	2	現代美術演習	2	絵画概論	2
立体造形概論	2	工芸基礎演習	2	ミクストメディア演習	2	コンピュータ概論	2	情報処理概論	2
デザイン史	2	情報処理実習	2	視覚情報報論	2	デザインマネジメント論	2	アートマネジメント論	2
ファッションデザイン論	2	情報伝達実習	2	通信ネットワーク演習	2	情報システム設計演習	2	情報と職業	2
情報産業論	2	知的財産法	2						

(2) 写真・映像メディア学科

○写真専攻

(イ) 必修科目

コンピュータ基礎演習	2	写真・映像メディア演習	2	映像基礎実習A	2	写真基礎実習 I	2	写真基礎実習 II	2
写真学概論	2	写真史	2	ゼミナール I	4	ゼミナール II	4	映像表現実習 I	2
写真芸術論	2	写真表現実習A	2	写真表現実習B	2	制作実習A	2	写真表現実習C	2
写真表現実習D	2	制作実習B	2	写真制作実習A	2	写真制作実習B	2	写真制作実習C	2
写真制作実習D	2	写真制作実習E	2	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4		

(ロ) 選択必修科目

デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	写真基礎実習A	2	写真表現論	2
コンテンツデザイン演習A	2	写真基礎実習B	2	映像基礎実習B	2	メディア基礎実習A	2	CG演習A	2
CG演習B	2	写真制作基礎実習A	2	フォトジャーナリズム論	2	広告写真論	2	写真制作基礎実習B	2
写真創作演習A	4	写真創作演習B	4						

(ハ) 選択科目

美術概論	2	色彩学	2	東洋美術史	2	西洋美術史	2	QUEST演習A	2
日本美術史	2	学外演習	2	キャリア開発演習A	2	QUEST演習B	2	キャリア開発演習B	2
キャリア開発演習C	2	QUEST演習C	2	インターンシップ	2	映像メディア概論	2	映像論	2
コンピュータ概論	2	情報処理概論	2	デッサン基礎	2	工芸基礎演習	2	絵画演習	2
情報処理実習	2	塑造演習	2	3DCG演習	2	マルチメディア概論	2	現代写真論	2
映像史	2	知的財産法	2	情報伝達実習	2	通信ネットワーク演習	2	情報産業論	2
情報システム設計演習	2	情報と職業	2	メディア表現実習	2	マルチメディア実習	2	営業写真論	2
写真制作論A	2	写真制作論B	2	写真クリエイティブ実習 I A	2	写真クリエイティブ実習 I B	2	写真クリエイティブ実習 I C	2
映像表現実習 II	2	国内作家論	2	国外作家論	2	写真クリエイティブ実習 II A	2	写真クリエイティブ実習 II B	2
写真クリエイティブ実習 II C	2	特別講義	2						

○映像メディア専攻

(イ) 必修科目

コンピュータ基礎演習	2	写真・映像メディア演習	2	映像基礎実習A	2	写真基礎実習 I	2	コンテンツデザイン演習A	2
映像基礎実習B	2	メディア基礎実習A	2	映像メディア概論	2	3DCG演習	2	マルチメディア概論	2
映像史	2	ゼミナール I	4	ゼミナール II	4	映像基礎実習C	2	音響基礎実習	2
デジタルコンテンツデザイン	2	番組制作論	2	映像基礎実習D	2	音響デザイン	2	メディア基礎実習B	2
広告マーケティング論	2	ショートフィルム制作実習	2	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4		

(ロ) 選択必修科目

デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	写真基礎実習A	2	写真表現論	2
写真基礎実習 II	2	写真基礎実習B	2	CG演習A	2	CG演習B	2	知的財産法	2
情報伝達実習	2	通信ネットワーク演習	2	マルチメディア実習	2	3DCG実習	2	コンテンツデザイン演習B	2
アニメーション実習	2	映像演出実習	2	シナリオ演習	2	アドバタイジング	2		

(ハ) 選択科目

美術概論	2	色彩学	2	東洋美術史	2	西洋美術史	2	QUEST演習A	2
日本美術史	2	学外演習	2	キャリア開発演習A	2	QUEST演習B	2	キャリア開発演習B	2
キャリア開発演習C	2	QUEST演習C	2	インターンシップ	2	映像論	2	コンピュータ概論	2
写真学概論	2	情報処理概論	2	デッサン基礎	2	工芸基礎演習	2	絵画演習	2
写真史	2	情報処理実習	2	塑造演習	2	現代写真論	2	写真制作論A	2
情報産業論	2	情報システム設計演習	2	情報と職業	2	メディア表現実習	2	視覚心理学	2
Webデザイン実習	2	映像芸術表現論	2	演技基礎実習	2	特撮・VFX概論	2	ドローイング基礎実習	2
エンターテインメント論	2	アニメーション芸術論	2	特撮・VFX実習	2	番組制作実習	2	サウンドアート実習	2
マンガ芸術論	2								

(3) ビジュアルデザイン学科

○グラフィックデザイン専攻

(イ) 必修科目

コンピュータ基礎演習	2	デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	色彩学	2
ビジュアルデザイン演習	2	図学製図基礎演習	2	写実実習	2	デザイン研究	4	グラフィックデザイン概論	2
グラフィックデザイン演習 I	4	タイポグラフィ実習 I	2	印刷実習	2	グラフィックデザイン論	2	グラフィックデザイン演習 II	4
グラフィックデザイン演習 III	4	グラフィックデザイン演習 IV	4	グラフィックデザイン特別演習	4	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4

(ロ) 選択必修科目

ビジュアルデザイン史	2	パッケージデザイン実習	2	Webデザイン実習	2	構文基礎	2	タイポグラフィ実習 II	2
グラフィックデザイン表現演習A	4	グラフィックデザイン表現演習B	4	グラフィックデザイン表現演習C	4	プロモーション・企画演習	4	ダイアグラムデザイン実習	2
エディトリアルデザイン実習	2	アドバタイジングデザイン実習	2	特別実習	2				

(ハ) 選択科目

美術概論	2	西洋美術史	2	QUEST演習A	2	日本美術史	2	学外演習	2
キャリア開発演習A	2	東洋美術史	2	キャリア開発演習B	2	QUEST演習B	2	キャリア開発演習C	2
QUEST演習C	2	インターンシップ	2	デッサン基礎	2	ビジュアルデザイン特別演習A	2	色彩計画演習A	2
視覚心理学	2	人間工学概論	2	カリグラフィ	2	工芸デザイン論	2	工芸史	2
工芸基礎演習	2	材料学	2	映像演習	2	塑造演習	2	絵画演習	2
プロダクトデザイン基礎演習	2	意匠・商標法	2	展示表現演習	2	ビジュアルデザイン特別演習B	4	コンピュータ概論	2
グラフィックデザイン実習	2	ブランドデザイン論	2	サステイナブルデザイン論	2	図画演習	4		

○イラストレーションデザイン専攻

(イ) 必修科目

コンピュータ基礎演習	2	デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	色彩学	2
ビジュアルデザイン演習	2	色彩計画演習A	2	デザイン研究	4	イラストレーションデザイン概論	2	イラストレーションデザイン基礎	2
イラストレーションデザイン演習 I	4	CG実習A	2	イラストレーションデザイン演習 II	4	CG実習B	2	イラストレーションデザイン演習 III	4
CG実習C	2	イラストレーションデザイン演習 IV	4	イラストレーションデザイン特別演習	4	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4

(ロ) 選択必修科目

キャリア開発演習A	2	キャリア開発演習B	2	キャリア開発演習C	2	ビジュアルデザイン史	2	写実実習	2
映像演習	2	Webデザイン実習	2	キャラクターデザイン実習	2	ドローイング基礎実習	2	コミックイラストレーション実習	2
ファッションイラスト実習	2	マンガ実習	2						

(ハ) 選択科目

美術概論	2	西洋美術史	2	QUEST演習A	2	日本美術史	2	学外演習	2
東洋美術史	2	QUEST演習B	2	QUEST演習C	2	インターンシップ	2	デッサン基礎	2
ビジュアルデザイン特別演習A	2	図学製図基礎演習	2	視覚心理学	2	人間工学概論	2	カリグラフィ	2
工芸デザイン論	2	工芸史	2	工芸基礎演習	2	パッケージデザイン実習	2	材料学	2
塑造演習	2	絵画演習	2	プロダクトデザイン基礎演習	2	意匠・商標法	2	展示表現演習	2
ビジュアルデザイン特別演習B	4	デザイン企画演習	2	モザイク	2	フィギュア実習	2	版画基礎実習	2
日本画実習	2	メディア芸術概論	2						

(4) 生活環境デザイン学科

○工芸デザイン専攻

(イ) 必修科目

コンピュータ基礎演習	2	デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	東洋美術史	2
生活環境デザイン演習	2	デザイン史	2	工芸デザイン論	2	工芸基礎演習	2	伝統工芸論	2
工芸デザイン基礎実習A	2	工芸デザイン基礎実習B	2	工芸デザイン基礎実習C	2	図学製図基礎演習	2	工芸デザイン演習 I	2
工芸デザイン実習 I	2	工芸デザイン演習 II	4	工芸デザイン演習 III	2	工芸デザイン実習 II	2	工芸デザイン演習 IV	4
工芸デザイン演習 V	4	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4				

(ロ) 選択必修科目

キャリア開発演習B	2	材料学	2	CG演習A	2	CG演習B	2	ガラス実習 I	2
ガラス実習 II	2	漆芸演習 I	2	工芸デザイン特別実習A I	2	工芸デザイン特別実習B I	2	漆芸演習 II	2
工芸デザイン特別実習A II	2	工芸デザイン特別実習B II	2	工芸デザイン特別実習A III	2	工芸デザイン特別実習B III	2	工芸デザイン特別実習A IV	2
工芸デザイン特別実習B IV	2								

(ハ) 選択科目

美術概論	2	色彩学	2	西洋美術史	2	QUEST演習A	2	日本美術史	2
学外演習	2	キャリア開発演習A	2	QUEST演習B	2	キャリア開発演習C	2	QUEST演習C	2
インターンシップ	2	デッサン基礎	2	絵画演習	2	人間工学概論	2	写真演習	2
コンピュータ概論	2	塑造演習	2	工芸史	2	ファッションデザイン論	2	クラフトデザイン実習	2
溶接実習 I	2	現代美術論	2	映像演習	2	家具インテリアデザイン論	2	ファッションデザイン演習	2
環境デザイン論	2	デザイン企画演習	2	ブランドデザイン論	2	意匠・商標法	2	ブランドデザイン演習	2
文化財科学演習	2	文化財保存論	2	プロダクトデザイン基礎演習	2				

○プロダクトデザイン専攻

(イ) 必修科目

コンピュータ基礎演習	2	デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	生活環境デザイン演習	2
デザイン史	2	材料加工実習B	2	プロダクトデザイン概論	2	図学製図演習A	2	プロダクトデザイン演習 I	4
図学製図演習B	2	プロダクトデザイン論	2	プロダクトデザイン演習 II	4	PD製図実習	2	サステナブルデザイン論	2
プロダクトデザイン演習A	4	マテリアルデザイン実習	2	プロダクトデザイン演習 III	4	プロダクトデザイン演習B	4	卒業研究 I	4
卒業研究 II	4								

(ロ) 選択必修科目

キャリア開発演習C	2	材料学	2	CG演習A	2	CG演習B	2	材料加工実習A	2
デザイン企画演習	2	CAD実習	2	デザインマネジメント論	2	製品モデリング実習	2	レンダリング実習	2
プロダクトデザイン特別演習A	4	3Dモデリング実習	2	プロダクトデザイン特別演習B	4				

(ハ) 選択科目

美術概論	2	色彩学	2	西洋美術史	2	東洋美術史	2	QUEST演習A	2
日本美術史	2	学外演習	2	キャリア開発演習A	2	キャリア開発演習B	2	QUEST演習B	2
QUEST演習C	2	インターンシップ	2	デッサン基礎	2	絵画演習	2	人間工学概論	2
写真演習	2	コンピュータ概論	2	工芸デザイン論	2	工芸基礎演習	2	塑造演習	2
工芸史	2	ファッションデザイン論	2	ガラス実習 I	2	クラフトデザイン実習	2	色彩計画演習B	2
伝統工芸論	2	溶接実習 I	2	映像演習	2	家具インテリアデザイン論	2	ファッションデザイン演習	2
舞台空間演出論	2	照明計画実習	2	環境デザイン論	2	ガラス実習 II	2	ブランドデザイン論	2
意匠・商標法	2	ブランドデザイン演習	2	地域文化論	2	パッケージデザイン実習	2	地場産業デザイン開発論	2
プロダクトデザイン特別演習C	2								

○空間演出デザイン専攻

(イ) 必修科目

コンピュータ基礎演習	2	デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	生活環境デザイン演習	2
デザイン史	2	照明計画実習	2	空間演出デザイン概論	2	空間演出デザイン基礎演習	4	製図実習A	2
空間演出デザイン論	2	空間演出デザイン演習 I A	4	空間演出デザイン演習 I B	4	空間演出デザイン演習 I C	4	空間演出デザイン演習 I D	4
空間演出デザイン演習 II	4	空間演出デザイン演習 III	4	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4		

(ロ) 選択必修科目

材料加工実習A	2	材料加工実習B	2	ファッションデザイン論	2	色彩計画演習B	2	製図実習B	2
コンセプトクリエイティブ論	2	空間演出表現実習 I	2	空間デザイン特別演習A	4	空間デザイン特別演習B	4	空間演出表現実習 II	2
景観デザイン実習	2	空間デザイン特別演習C	4	空間デザイン特別演習D	4	空間造形実習	2		

(ハ) 選択科目

美術概論	2	色彩学	2	西洋美術史	2	東洋美術史	2	QUEST演習A	2
日本美術史	2	学外演習	2	キャリア開発演習A	2	キャリア開発演習B	2	QUEST演習B	2
キャリア開発演習C	2	QUEST演習C	2	インターンシップ	2	デッサン基礎	2	絵画演習	2
人間工学概論	2	材料学	2	CG演習A	2	CG演習B	2	写真演習	2
コンピュータ概論	2	工芸デザイン論	2	工芸基礎演習	2	塑造演習	2	工芸史	2
ガラス実習 I	2	溶接実習 I	2	現代美術論	2	映像演習	2	家具インテリアデザイン論	2
舞台空間演出論	2	環境デザイン論	2	ガラス実習 II	2	意匠・商標法	2	形態構造演習	4
ファッションイラスト実習	2	現代美術演習	2	建築法規	2	建築生産論	2	建築設計演習	4

(5) ソーシャルデザイン学科

○情報デザイン専攻

(イ) 必修科目

コンピュータ基礎演習	2	ソーシャルデザイン演習	2	デザイン史	2	ソーシャルデザイン実践演習	4	視聴覚情報論	2
Webデザイン実習	2	メディア情報論	2	情報デザイン概論	2	情報デザイン演習 I	4	情報デザイン演習 II A	4
情報デザイン演習 II B	4	情報デザイン演習 III A	4	情報デザイン演習 III B	4	視覚デザイン実習	2	情報デザイン研究 I	4
情報デザイン研究 II	4	卒業研究 I	4	卒業研究 II	4				

(ロ) 選択必修科目

デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	美術概論	2	日本美術史	2
西洋美術史	2	地域文化論	2	CG演習A	2	CG演習B	2	マルチメディア概論	2
写真演習	2	映像演習	2	デザイン企画演習	2	コミックイラストレーション実習	2	パッケージデザイン実習	2
展示表現演習	2	マンガ芸術論	2	エンターテインメント論	2				

(ハ) 選択科目

色彩学	2	QUEST演習A	2	キャリア開発演習A	2	学外演習	2	東洋美術史	2
キャリア開発演習B	2	キャリア開発演習C	2	QUEST演習B	2	QUEST演習C	2	インターンシップ	2
デザインマネジメント論	2	アートマネジメント論	2	情報処理概論	2	コンピュータ概論	2	絵画演習	2
工芸基礎演習	2	塑造演習	2	サステナブルデザイン論	2	ブランドデザイン演習	2	情報処理実習	2
映像芸術表現論	2	通信ネットワーク演習	2	情報と職業	2	3DCG演習	2	写真芸術論	2
現代美術論	2	環境デザイン論	2	情報伝達実習	2	情報産業論	2	知的財産法	2
情報システム設計演習	2	サウンドアート実習	2						

○地域ブランド企画専攻

(イ) 必修科目

コンピュータ基礎演習	2	ソーシャルデザイン演習	2	デザイン史	2	ソーシャルデザイン実践演習	4	デザインマネジメント論	2
アートマネジメント論	2	地域ブランド企画概論	2	地域ブランド企画演習Ⅰ	4	地域ブランド企画演習ⅡA	4	地域ブランド企画演習ⅡB	4
地域ブランド企画演習ⅡC	4	地域ブランド企画演習ⅡD	4	地域ブランド企画演習ⅢA	4	地域ブランド企画研究Ⅰ	2	地域ブランド企画演習ⅢB	4
地域ブランド企画研究Ⅱ	2	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4				

(ロ) 選択必修科目

デッサン	2	平面構成	2	立体構成	2	美術概論	2	日本美術史	2
西洋美術史	2	Webデザイン実習	2	地域文化論	2	CG演習A	2	CG演習B	2
マルチメディア概論	2	サステイナブルデザイン論	2	コミックイラストレーション実習	2	パッケージデザイン実習	2	ブランドデザイン演習	2
CAD実習	2	ブランドデザイン論	2	地場産業デザイン開発論	2				

(ハ) 選択科目

色彩学	2	QUEST演習A	2	キャリア開発演習A	2	学外演習	2	東洋美術史	2
キャリア開発演習B	2	キャリア開発演習C	2	QUEST演習B	2	QUEST演習C	2	インターンシップ	2
視聴覚情報論	2	メディア情報論	2	情報処理概論	2	コンピュータ概論	2	絵画演習	2
工芸基礎演習	2	塑造演習	2	写真演習	2	映像演習	2	デザイン企画演習	2
展示表現演習	2	工芸史	2	視覚心理学	2	図学製図基礎演習	2	色彩計画演習B	2
工芸デザイン論	2	意匠・商標法	2	プロダクトデザイン基礎演習	2				

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

日本語初級Ⅰ	1	日本語初級Ⅱ	1	日本語初級Ⅲ	1	日本語初級Ⅳ	1	日本語中級Ⅰ	1
日本語中級Ⅱ	1	日本語中級Ⅲ	1	日本語中級Ⅳ	1	日本語上級Ⅰ	1	日本語上級Ⅱ	1
日本語上級Ⅲ	1	日本語上級Ⅳ	1						

(ロ) 日本事情

日本の歴史Ⅰ	2	日本の歴史Ⅱ	2	日本の文化Ⅰ	2	日本の文化Ⅱ	2	日本の政治経済Ⅰ	2
日本の政治経済Ⅱ	2	一般日本事情Ⅰ	2	一般日本事情Ⅱ	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動の指導法	2	教育の方法・技術	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅱ	2	美術科教育法	4
工芸科教育法	4	教科指導法研究Ⅰ(美術)	2	教科指導法研究Ⅰ(工芸)	2	教科指導法研究Ⅱ(美術)	2	学校発達心理学	2
同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2				

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第8

国際文化学部の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 国際文化学科

(イ) 必修科目

○D群(アジア文化コース)

ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4	ゼミナールⅢ	4
--------	---	--------	---	--------	---

○D群(欧米文化コース)

ゼミナールⅠ	4	ゼミナールⅡ	4
--------	---	--------	---

○D群(英語コミュニケーションコース)

ゼミナールⅠ	4	英語ワークショップⅠ	4
--------	---	------------	---

(ロ) 選択必修科目

○D群(アジア文化コース)

ゼミナールⅣ	4	卒業論文・卒業研究	8
--------	---	-----------	---

○D群(欧米文化コース)

プロジェクトゼミ	4	ゼミナールⅢ	4
----------	---	--------	---

○D群(英語コミュニケーションコース)

英語ワークショップⅡ	2	英語ワークショップⅢ	2
------------	---	------------	---

(ハ) 選択科目

○A群

哲学入門A	2	哲学入門B	2	日本人論A	2	日本人論B	2	古典に学ぶA	2
古典に学ぶB	2	古典に学ぶC	2	古典に学ぶD	2	宗教学入門A	2	宗教学入門B	2
国際関係論A	2	国際関係論B	2	社会学入門A	2	社会学入門B	2	地理学入門A	2
地理学入門B	2	歴史学入門A	2	歴史学入門B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2
言語学A	2	言語学B	2	異文化との接触	2				

○B群(アジア文化コース)

アジア文化入門A	2	アジア文化入門B	2	英米文化入門	2	ヨーロッパ文化入門	2	イスラム文化論A	2
イスラム文化論B	2	ヨーロッパ文化交流史A	2	ヨーロッパ文化交流史B	2	現代アジア事情A	2	現代アジア事情B	2
アジア文化交流史A	2	アジア文化交流史B	2	比較文化論A	2	比較文化論B	2	東洋思想の源流	2
西洋思想の源流	2	マスコミ文化論A	2	マスコミ文化論B	2	環境問題論A	2	環境問題論B	2
ジェンダー論	2	現代社会のセクシュアリティ	2	国際協力論	2	コミュニケーション英語入門A	2	コミュニケーション英語入門B	2

○B群(欧米文化コース・英語コミュニケーションコース)

アジア文化入門A	2	アジア文化入門B	2	英米文化入門	2	ヨーロッパ文化入門	2	イスラム文化論A	2
イスラム文化論B	2	ヨーロッパ文化交流史A	2	ヨーロッパ文化交流史B	2	アジア文化交流史A	2	アジア文化交流史B	2
比較文化論A	2	比較文化論B	2	東洋思想の源流	2	西洋思想の源流	2	マスコミ文化論A	2
マスコミ文化論B	2	環境問題論A	2	環境問題論B	2	ジェンダー論	2	現代社会のセクシュアリティ	2
国際協力論	2	コミュニケーション英語入門A	2	コミュニケーション英語入門B	2				

○C群(アジア文化コース)

中国史A	2	中国史B	2	朝鮮史A	2	朝鮮史B	2	東南アジア史	2
中国文化論A	2	中国文化論B	2	朝鮮文化論A	2	朝鮮文化論B	2	東南アジア文化論	2
南アジア文化論	2	近現代中国論	2	近現代コリア論	2	中国近現代文学	2	中国古典文学	2
朝鮮近現代文学	2	朝鮮古典文学	2	中国思想史	2	朝鮮思想史	2	アジア文化特講A	2
アジア文化特講B	2	キャリア中国語Ⅰ	2	キャリア中国語Ⅱ	2	キャリア韓国語Ⅰ	2	キャリア韓国語Ⅱ	2
ビジネス日本語Ⅰ	2	ビジネス日本語Ⅱ	2	アジア文献講読A	2	アジア文献講読B	2	中国語総合演習Ⅰ	2
中国語総合演習Ⅱ	2	韓国語総合演習Ⅰ	2	韓国語総合演習Ⅱ	2				

○C群(欧米文化コース)

ヨーロッパ史A	2	ヨーロッパ史B	2	アメリカ史A	2	アメリカ史B	2	欧米思想史A	2
欧米思想史B	2	フランス文化論A	2	フランス文化論B	2	ドイツ文化論A	2	ドイツ文化論B	2
イギリス文化論A	2	イギリス文化論B	2	アメリカ文化論A	2	アメリカ文化論B	2	地中海文化論A	2
地中海文化論B	2	フランス文学	2	ドイツ文学	2	イギリス文学	2	アメリカ文学	2
現代英米論	2	現代ヨーロッパ論	2	アメリカ文化特講	2	イギリス文化特講	2	フランス文化特講	2
ドイツ文化特講	2	キャリアフランス語Ⅰ	2	キャリアフランス語Ⅱ	2	キャリアドイツ語Ⅰ	2	キャリアドイツ語Ⅱ	2
キャリア英語Ⅰ	2	キャリア英語Ⅱ	2	ビジネス日本語Ⅰ	2	ビジネス日本語Ⅱ	2	欧米文献講読A	2
欧米文献講読B	2	フランス語総合演習Ⅰ	2	フランス語総合演習Ⅱ	2	ドイツ語総合演習Ⅰ	2	ドイツ語総合演習Ⅱ	2
英語総合演習Ⅰ	2	英語総合演習Ⅱ	2						

○C群 (英語コミュニケーションコース)

Communicative Language Learning I	2	Communicative Language Learning II	2	English Phonetics I	2	English Phonetics II	2	Communicative Grammar A	2
Communicative Grammar B	2	Communicative Writing A	2	Communicative Writing B	2	Academic English I	2	Academic English II	2
Media English I	2	Media English II	2	English Linguistics I	2	English Linguistics II	2	Basics for Teaching English A	2
Basics for Teaching English B	2	Intercultural Communication I	2	Intercultural Communication II	2	English for International Business I	2	English for International Business II	2
Business Presentations I	2	Business Presentations II	2	Teaching English to Children I	2	Teaching English to Children II	2	Advanced Reading A	2
Advanced Reading B	2								

○D群 (アジア文化コース)

海外研修 I	4	海外研修 II	4	短期語学留学A	2	短期語学留学B	4	海外派遣留学	8
アジアフィールドスタディA	2	アジアフィールドスタディB	2	プロジェクトゼミ	4				

○D群 (欧米文化コース)

海外研修 I	4	海外研修 II	4	短期語学留学A	2	短期語学留学B	4	海外派遣留学	8
ゼミナールIV	4	卒業論文・卒業研究	8						

○D群 (英語コミュニケーションコース)

資格検定英語A	2	資格検定英語B	2	資格検定英語C	2	資格検定英語D	2	海外研修 I	4
海外研修 II	4	短期語学留学A	2	短期語学留学B	4	海外派遣留学	8	プロジェクトゼミ	4
卒業論文・卒業研究	8								

○E群

文章表現法A	2	文章表現法B	2	日本語音韻論	2	日本語表記論	2	日本文学特講A	2
日本文学特講B	2	日本古典文学A	2	日本古典文学B	2	日本近代文学A	2	日本近代文学B	2
日本文学概論A	2	日本文学概論B	2	国語学概論	2	日本語文法論	2	日本語教育学A	2
日本語教育学B	2	プログラミング演習	2	統計処理演習	2	情報演習	2	日本文学史	2
書道芸術	2	書道実技	2	日本近現代文学講読	2	日本古典文学講読	2	日本語教授法	2
日本語教育授業研究	2								

○教科に関する科目

○漢文学	4
------	---

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(2) 日本文化学科

(イ) 必修科目

○D群

ゼミナール I	4	ゼミナール II	4
---------	---	----------	---

(ロ) 選択必修科目

○D群

フィールドスタディ基礎A	2	フィールドスタディ基礎B	2	ゼミナール III	4	フィールドスタディ	4	プロジェクトゼミ	4
--------------	---	--------------	---	-----------	---	-----------	---	----------	---

(ハ) 選択科目

○A群

哲学入門A	2	哲学入門B	2	日本人論A	2	日本人論B	2	古典に学ぶA	2
古典に学ぶB	2	古典に学ぶC	2	古典に学ぶD	2	宗教学入門A	2	宗教学入門B	2
国際関係論A	2	国際関係論B	2	社会学入門A	2	社会学入門B	2	地理学入門A	2
地理学入門B	2	歴史学入門A	2	歴史学入門B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2
言語学A	2	言語学B	2	異文化との接触	2				

○B群

日本歴史入門	2	日本文学入門	2	地域社会入門	2	民俗学概論A	2	民俗学概論B	2
アジア文化交流史A	2	アジア文化交流史B	2	比較文化論A	2	比較文化論B	2	東洋思想の源流	2
西洋思想の源流	2	マスコミ文化論A	2	マスコミ文化論B	2	国際経済論A	2	国際経済論B	2
環境問題論A	2	環境問題論B	2	ジェンダー論	2	現代社会のセクシュアリティ	2	国際協力論	2

○C群 (日本語日本文学コース)

日本古典文学A	2	日本古典文学B	2	日本文学概論A	2	日本文学概論B	2	文章表現法A	2
文章表現法B	2	国語学概論	2	日本語文法論	2	書道芸術	2	書道実技	2
日本近代文学A	2	日本近代文学B	2	日本語教育学A	2	日本語教育学B	2	文芸創作A	2
文芸創作B	2	オフィスコミュニケーション	2	言葉と文化	2	伝統文化論	2	出版文化論	2
日本文学特講A	2	日本文学特講B	2	日本語教授法	2	日本語教育授業研究	2	メディア文化論A	2
メディア文化論B	2	日本文学史	2	実践国語教職研究	2				

○C群(歴史・社会コース)

日本前近代史	2	日本近現代史	2	日本史学特講A	2	日本史学特講B	2	日本史文献講読A	2
日本史文献講読B	2	日本人論特講A	2	日本人論特講B	2	考古学概論A	2	考古学概論B	2
社会学特講A	2	社会学特講B	2	コミュニティ論A	2	コミュニティ論B	2	法学概論A	2
法学概論B(国際法を含む)	2	自治体論A	2	自治体論B	2	政治学A	2	政治学B	2
都市論A	2	都市論B	2	人文地理学A	2	人文地理学B	2	地誌学A	2
地誌学B	2								

○D群

海外研修 I	4	海外研修 II	4	卒業論文・卒業研究	8
--------	---	---------	---	-----------	---

○E群

日本語音韻論	2	日本語表記論	2	社会心理学A	2	社会心理学B	2	中国古典文学	2
中国思想史	2	自然地理学A	2	自然地理学B	2	日本近現代文学講読	2	日本古典文学講読	2
プログラミング演習	2	統計処理演習	2	情報演習	2				

○教科に関する科目

○日本史	4	○外国史	4	○哲学	4	○倫理学概論	2	○漢文学	4
------	---	------	---	-----	---	--------	---	------	---

(注) 選択科目中○印のついた科目は教職課程履修者のみ履修可能な科目である。

(3) 臨床心理学科

(イ) 必修科目

○C群

臨床心理学A	2	臨床心理学B	2	基礎心理学A	2	基礎心理学B	2	心理統計法	2
集団療法演習	2	キャリアプランニング演習A	2						

○C群(臨床心理コース)

心理学実験・演習A	2	心理学実験・演習B	2
-----------	---	-----------	---

○D群

ゼミナール I	4	ゼミナール II	2
---------	---	----------	---

(ロ) 選択科目

○A群

哲学入門A	2	哲学入門B	2	日本人論A	2	日本人論B	2	古典に学ぶA	2
古典に学ぶB	2	古典に学ぶC	2	古典に学ぶD	2	宗教学入門A	2	宗教学入門B	2
国際関係論A	2	国際関係論B	2	社会学入門A	2	社会学入門B	2	地理学入門A	2
地理学入門B	2	歴史学入門A	2	歴史学入門B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2
言語学A	2	言語学B	2	異文化との接触	2				

○B群

医学一般A	2	医学一般B	2	子ども学入門	2	現代社会と福祉A	2	現代社会と福祉B	2
異文化間心理学A	2	異文化間心理学B	2	マスコミ文化論A	2	マスコミ文化論B	2	国際経済論A	2
国際経済論B	2	環境問題論A	2	環境問題論B	2	ジェンダー論	2	現代社会のセクシュアリティ	2
比較文化論A	2	比較文化論B	2	東洋思想の源流	2	西洋思想の源流	2	国際協力論	2
コミュニケーション英語入門A	2	コミュニケーション英語入門B	2						

○C群(学科共通)

生理心理学A	2	生理心理学B	2	学習心理学A	2	学習心理学B	2	認知心理学	2
発達心理学	2	生命と倫理	2	低所得者に対する支援と生活保護制度	2	心理臨床論	2	心理査定法	2
社会心理学A	2	社会心理学B	2	心理学基礎実験演習	2	精神保健の課題と支援A	2	精神保健の課題と支援B	2
精神疾患とその治療A	2	精神疾患とその治療B	2	社会保障論A	2	社会保障論B	2	地域福祉の理論と方法A	2
地域福祉の理論と方法B	2	福祉行政と福祉計画	2	権利擁護と成年後見制度	2	精神障害者の生活支援システム	2	キャリアプランニング演習B	2
障害者心理学	2	人格心理学	2	教育人間論A	2	教育人間論B	2	現代教育論A	2
現代教育論B	2	犯罪心理学	2	カウンセリング演習	2	臨床心理学文献講読基礎	2	投影法演習	2
精神保健福祉相談援助の基盤 I	2	精神保健福祉相談援助の基盤 II	2	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	臨床心理学文献講読発展	2	産業心理学	2

○C群(臨床心理コース)

心理統計法演習	2	コミュニティ臨床心理学演習	2	健康行動学演習	2	教育臨床心理学演習	2	家族臨床心理学演習	2
---------	---	---------------	---	---------	---	-----------	---	-----------	---

○C群(精神保健福祉コース)

精神保健福祉に関する制度とサービス I	2	精神保健福祉に関する制度とサービス II	2	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I	2	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II	2	精神保健福祉援助演習 I	1
精神保健福祉援助実習指導 I	1	精神保健福祉援助実習	4	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 III	2	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 IV	2	精神保健福祉援助演習 II	2
精神保健福祉援助実習指導 II	2								

○D群

海外研修 I	4	海外研修 II	4	卒業論文・卒業研究	8
--------	---	---------	---	-----------	---

○E群

法学概論A	2	法学概論B(国際法を含む)	2	国語学概論	2	日本語文法論	2	日本語音韻論	2
日本語表記論	2	日本語教育学A	2	日本語教育学B	2	文章表現法A	2	文章表現法B	2
プログラミング演習	2	統計処理演習	2	情報演習	2	日本語教授法	2	日本語教育授業研究	2

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

日本語初級 I	1	日本語初級 II	1	日本語初級 III	1	日本語初級 IV	1	日本語中級 I	1
日本語中級 II	1	日本語中級 III	1	日本語中級 IV	1	日本語上級 I	1	日本語上級 II	1
日本語上級 III	1	日本語上級 IV	1						

(ロ) 日本事情

日本の歴史 I	2	日本の歴史 II	2	日本の文化 I	2	日本の文化 II	2	日本の政治経済 I	2
日本の政治経済 II	2	一般日本事情 I	2	一般日本事情 II	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動の指導法	2	教育の方法・技術	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習 I	2	教育実習 II	2	国語科教育法	4
英語科教育法	4	社会科教育法	4	地理歴史科教育法	4	公民科教育法	4	教科指導法研究 I (国語)	2
教科指導法研究 I (英語)	2	教科指導法研究 I (社会)	2	教科指導法研究 I (地理歴史)	2	教科指導法研究 I (公民)	2	教科指導法研究 II (社会)	2
教科指導法研究 II (国語)	2	教科指導法研究 II (英語)	2	学校発達心理学	2	同和教育論	2	教育社会学	2
教職特講	2								

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第9

情報科学部情報科学科の授業科目の種類及び単位数

(一) 専門科目

(1) 専門基礎

(イ) 必修科目

情報科学序説	2	情報リテラシー	2	情報リテラシー演習	2	数学基礎演習	2	プログラミング基礎	4
計算機アーキテクチャ	2								

(ロ) 選択科目

線形代数 I	2	微分積分 I	2	線形代数 II	2	物理学	2	物理学演習	2
微分積分 II	2	日本語表現法	2	情報技術者倫理	2	現代自然科学	2	工学的センスの基礎	2
微分方程式	2								

(2) 計算機科学

(イ) 必修科目

データ構造とアルゴリズム I	2	計算機システム	2	情報回路 I	2	ソフトウェア演習	2	データ構造とアルゴリズム II	4
情報回路実験 I	2	情報回路 II	2						

(ロ) 選択科目

離散数学 I	2	離散数学 II	2	数理論理学	2	情報理論・確率論	2	グラフ理論	2
統計学	2	認知科学	2	データ構造とアルゴリズム III	2	情報回路実験 II	2	情報回路 III	2
オブジェクト指向設計	2	コンピュータネットワーク	2	データベース	2	オペレーティングシステム	2	アルゴリズム論 I	2
計画数学	2	プログラミング言語とコンパイラ	2	コンピュータグラフィックス基礎	2	知能情報システム論	2	アルゴリズム論 II	2
計算モデル論	2	コンピュータグラフィックス応用	2						

(3) 専門展開

(イ) 必修科目

卒業研究	8
------	---

(ロ) 選択科目

信号処理	2	工業デザイン	2	感性科学	2	交通システム論	2	金融システム論	2
流通システム論	2	医療情報システム論	2	自然言語処理	2	社会情報学(特許/知的所有権)	2	微分幾何学	4
位相幾何学	4	数理統計学	4	インターネット工学	2	情報セキュリティ	2	経営情報学	2
音声・画像/処理・理解	2	ヒューマンインタフェース	2	マルチメディア	2	組込みシステム/VLSI工学	2	並列処理と分散処理	2
モバイルコンピューティング	2	計画と管理	2	情報と職業	2	初等幾何学	2		

(4) 実践力育成

(イ) 必修科目

情報科学基礎演習 I	1	情報科学基礎演習 II	1	情報科学演習 I	1	情報科学演習 II	1
------------	---	-------------	---	----------	---	-----------	---

(ロ) 選択科目

情報システム特講A	2	情報システム特講B	2	Webプログラミング演習	2	グラフィックスプログラミング演習	2	ゲームプログラミング演習	2
インターンシップ	2	ゼミナール・サポーター	2	情報システムプロジェクト管理	4				

(二) 留学生に関する科目

(イ) 日本語

日本語初級 I	1	日本語初級 II	1	日本語初級 III	1	日本語初級 IV	1	日本語中級 I	1
日本語中級 II	1	日本語中級 III	1	日本語中級 IV	1	日本語上級 I	1	日本語上級 II	1
日本語上級 III	1	日本語上級 IV	1						

(ロ) 日本事情

日本の歴史 I	2	日本の歴史 II	2	日本の文化 I	2	日本の文化 II	2	日本の政治経済 I	2
日本の政治経済 II	2	一般日本事情 I	2	一般日本事情 II	2				

(三) 教職に関する科目

教職論	2	教育原理	2	教育心理学	2	教育制度論	2	道徳教育論	2
教育課程論	2	特別活動の指導法	2	教育の方法・技術	2	生徒指導論(進路指導を含む)	2	教育相談の方法・技術	2
教職実践演習(中・高)	2	教育実習事前事後指導	1	教育実習 I	2	教育実習 II	2	情報科教育法	4
数学科教育法	4	教科指導法研究 I(情報)	2	教科指導法研究 I(数学)	2	教科指導法研究 II(数学)	2	学校発達心理学	2
同和教育論	2	教育社会学	2	教職特講	2				

本表に掲げる授業科目のうち専門科目の必修科目を除く各科目については都合によりその一部を開講しないことがある。

別表第10

卒業に必要な授業科目及び単位数

経済学部経済学科（昼間主コース、夜間主コース）

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数	
専 門 科 目	選択必修科目	26単位	
	選択科目	54単位	
基 礎 教 育 科 目		12単位	
外 国 語 科 目		二言語12単位（英語8単位以上）	
合 計		124単位	

さらに専門科目、基礎教育科目及び外国語科目から20単位

商学部第一部商学科

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数	
専 門 科 目	選択必修科目	商学専門科目	12単位
		商学関連科目	6単位
	選択科目	62単位	
基 礎 教 育 科 目	実践科目	4単位以上	12単位
	教養科目	4単位以上	
	心と身体の健康科目		
外 国 語 科 目		10単位（英語8単位以上）	
合 計		124単位	

さらに専門科目、基礎教育科目及び外国語科目から22単位

商学部第一部観光産業学科

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数	
専 門 科 目	必修科目	4単位	
	選択必修科目	36単位	
	選択科目	42単位	
基 礎 教 育 科 目	実践科目	4単位以上	12単位
	教養科目	4単位以上	
	心と身体の健康科目		
外 国 語 科 目		12単位（英語8単位以上）	
合 計		124単位	

さらに専門科目、基礎教育科目及び外国語科目から18単位

商学部第二部

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数	
専 門 科 目		80単位	
基 礎 教 育 科 目		12単位	
外 国 語 科 目		英語8単位以上	
合 計		124単位	

さらに専門科目、基礎教育科目及び外国語科目から24単位

経営学部

授 業 科 目 区 分		授 業 科 目 及 び 単 位 数	
専 門 科 目	選 択 必 修 科 目	12単位	
	選 択 科 目	68単位	
	小 計	80単位	
基 礎 教 育 科 目		20単位	
外 国 語 科 目		12単位 (英語8単位以上)	
合 計		124単位	

さらに専門科目、基礎教育科目及び外国語科目から12単位

工学部

授業科目区分		授 業 科 目 及 び 単 位 数							
		機 械 工 学 科	電 気 情 報 工 学 科	物 質 生 命 科 学 科		都 市 基 盤 デ ザ イ ン 工 学 科	建 築 学 科	住 居 ・ イ ン テ リ ア 設 計 学 科	バ イ オ ロ ボ テ イ ク ス 科
専 門 科 目	必 修	62単位	58単位	38単位		60単位	80単位	58単位	82単位
	選 択 必 修	—	4単位以上	物質・環境系 生物・環境系 共通	18単位以上	—	—	—	—
	選 択	42単位以上	24単位以上	実験	2単位以上				
	計	104単位以上	86単位以上	40単位以上		42単位以上	24単位以上	36単位以上	22単位以上
基礎教育科目		12単位以上	14単位以上	16単位以上		12単位以上	12単位以上	20単位以上	12単位以上
外国語科目		英語8単位以上	英語8単位以上	10単位以上(英語8単位を含む)			英語8単位以上	10単位以上 (英語8単位を含む)	英語8単位以上
合 計		124単位以上	124単位以上	124単位以上	124単位以上	124単位以上	124単位以上	124単位以上	124単位以上

芸術学部

授業科目区分	授業科目及び単位数	
専門科目	必修科目	56単位
	選択必修科目	18単位
	選択科目	26単位以上
基礎教育科目	導入科目	16単位以上
	実践科目	
	教養科目	
	心と身体の健康科目	
外国語科目		英語8単位以上
合 計		124単位以上

国際文化学部国際文化学科

授業科目区分		授 業 科 目 及 び 単 位 数				
		必修科目	選択必修科目	選択科目	計	
専 門 科 目	A群	—	—	12単位	12単位	
	B群	—	—	12単位	12単位	
	C群	—	—	同一コースから 28単位	28単位	
	D群	ア ジ ア 文 化	12単位	4単位	—	20単位
		欧 米 文 化	8単位	4単位	—	
	英語コミュニケーション	8単位	2単位	—		
外国語科目		1外国語につき4単位以上			2外国語 (英語8単位以上) 12単位	
基 礎 教 育 科 目	導 入 科 目		2単位		24単位	
	実 践 科 目			4単位		
	教 養 科 目			12単位		
	心 と 身 体 の 健 康 科 目					
合 計					124単位	

国際文化学部日本文化学科

授業科目区分		授業科目及び単位数			
		必修科目	選択必修科目	選択科目	計
専門科目	A群	——	——	12単位	12単位
	B群	——	——	16単位	16単位
	C群	——	——	同一コースから 24単位	24単位
	D群	8単位	8単位	——	16単位
外国語科目		——	8単位	——	2外国語 (英語8単位以上) 12単位
1外国語につき4単位以上					
基礎教育科目	導入科目		2単位		} 24単位
	実践科目			4単位	
	教養科目			12単位	
	心と身体の健康科目				
合計		124単位			

専門科目及び外国語科目からさらに20単位

国際文化学部臨床心理学科

授業科目区分		授業科目及び単位数				
		必修科目	選択必修科目	選択科目	計	
専門科目	A群	——	——	12単位	12単位	
	B群	——	——	12単位	12単位	
	C群	学科共通科目	14単位	——	22単位	42単位
		臨床心理コース	4単位		2単位	
		精神保健福祉コース			6単位	
D群	6単位	——	——	6単位		
外国語科目		——	8単位	——	2外国語 (英語8単位以上) 12単位	
1外国語につき4単位以上						
基礎教育科目	導入科目		2単位		} 24単位	
	実践科目			4単位		
	教養科目			12単位		
	心と身体の健康科目					
合計		124単位				

専門科目及び外国語科目からさらに16単位

情報科学部

授業科目区分		授業科目及び単位数	
専門科目	専門基礎科目	必修科目	14単位
		選択科目	6単位
	計算機科学科目 及び専門展開科目	必修科目	24単位
		選択科目	36単位
	実践力育成科目	必修科目	4単位
		選択科目	4単位
	小計		88単位
	基礎教育科目	導入科目	2単位
		実践科目	12単位
教養科目			
心と身体の健康科目			
小計		14単位	
外国語科目		10単位 (英語8単位以上)	
さらに専門科目、基礎教育科目 及び外国語科目		12単位	
合計		124単位	

別表第11

(1) 司書に関する科目

生涯学習概論	2	図書館概論	2	図書館制度・経営論	2	図書館情報技術論	2	図書館サービス概論	2
情報サービス論	2	児童サービス論	2	情報サービス演習Ⅰ	1	情報サービス演習Ⅱ	1	図書館情報資源概論	2
情報資源組織論	2	情報資源組織演習	2	図書館基礎特論	1	図書館サービス特論	1	図書館情報資源特論	1
図書・図書館史	1	図書館施設論	1	図書館総合演習	1	図書館実習	1		

(2) 司書教諭に関する科目

学校経営と学校図書館	2	学校図書館メディアの構成	2	学習指導と学校図書館	2	読書と豊かな人間性	2	情報メディアの活用	2
------------	---	--------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---

別表第12

博物館に関する科目

生涯学習概論	2	博物館概論	2	博物館経営論	2	博物館資料論	2	博物館資料保存論	2
博物館展示論	2	博物館教育論	2	博物館情報・メディア論	2	博物館実習	3	文化史	4
美術史	2	考古学	2	民俗学	4	物理学	4	化学	2
生物学	4	地学	4						

別表第13

社会教育主事に関する科目

生涯学習の基礎	4	社会教育計画	4	社会教育演習	4	同和教育論	2	道徳教育論	2
図書館概論	2	博物館概論	2	博物館教育論	2	博物館情報・メディア論	2	教育原理	2
教育制度論	2								

別表第14

芸術専攻科の授業科目の種類及び単位数

(1) 美術専攻

(イ) 必修科目

造形創作研究	8	造形特論	4
--------	---	------	---

(ロ) 選択科目

絵画材料研究	4	彫塑材料研究	4	版画創作研究	4	実材彫刻研究	4	美術概論	4
--------	---	--------	---	--------	---	--------	---	------	---

(2) デザイン専攻

(イ) 必修科目

デザイン特論	4	デザイン製作実習 (ビジュアル・デザイン)	8	デザイン製作実習 (環境デザイン)	8	デザイン製作実習 (製品デザイン)	8
--------	---	--------------------------	---	----------------------	---	----------------------	---

(ロ) 選択科目

デザイン・ゼミナール (ビジュアル・デザイン)	4	デザイン・ゼミナール (環境デザイン)	4	デザイン・ゼミナール (製品デザイン)	4	構成研究	4	材料研究	4
機能研究	4	色彩及び形態研究	4	デザイン及び造形史	4				

(3) 写真専攻

(イ) 必修科目

写真特論	4	論文又は製作	8
------	---	--------	---

(ロ) 選択科目

写真芸術論	4	産業写真論	4	写真演習	12
-------	---	-------	---	------	----

別表第15

(1) 入学検定料、再入学選考料及び科目等履修生選考料

イ 入学検定料

(単位:円)

種 別		金 額	
推 薦 入 学 試 験		27,000	
一 般 入 学 試 験			
芸 術 学 部 実 技 入 学 試 験			
編 入 入 学 試 験			
帰 国 子 女 入 学 試 験			
社 会 人 入 学 試 験			
A O 入 学 試 験 I 期	商学部第一部 経営学部	一次選考	10,000
	情報科学部 工学部	二次選考	17,000
	芸術学部	一次選考	無料
		二次選考	27,000
A O 入 学 試 験 II 期		27,000	
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 利 用 入 試		13,000	
一 般 入 試 ・ セ ン タ ー 試 験 併 用 型 入 試		10,000	
外 国 人 留 学 生 入 学 試 験		13,000	

- (注) 1. 一般入学試験における2出願目からの入学検定料は、1出願につき10,000円とする。
 2. 大学入試センター試験利用入試における2出願目からの入学検定料は、1出願につき10,000円とする。
 3. AO入学試験又は推薦入学試験において入学手続きを完了した者が、一般入学試験(前期日程)に出願する場合の入学検定料は、1出願につき10,000円とする。
 4. 一般入試・センター試験併用型入試を出願する者は、一般入学試験の入学検定料27,000円を別途納付のうえ、受験しなければならない。
 5. 九州造形短期大学卒業生で本学の編入学試験を受験する者の入学検定料は、13,000円とする。

ロ 再入学選考料

(単位:円)

種 別	金 額
再 入 学 選 考 料	16,000

ハ 科目等履修生選考料

(単位:円)

種 別	金 額	
科 目 等 履 修 生 選 考 料	本 学 卒 業 者 及 び 修 了 者	6,000
	本 学 以 外 の 卒 業 者	12,000

(2) 入学金

(単位:円)

学 部	金 額	
経 済 学 部	昼 間 主 コ ー ス	230,000
	夜 間 主 コ ー ス	70,000
商 学 部 第 一 部	230,000	
商 学 部 第 二 部	70,000	
経 営 学 部	230,000	
工 学 部	230,000	
芸 術 学 部	270,000	
国 際 文 化 学 部	230,000	
情 報 科 学 部	230,000	

(3) 修学費

(単位:円)

種 別		学 部		商学部第一部	商学部第二部	経営学部	
		経済学部					
		昼間主コース	夜間主コース				
修学費	授業料	603,000	292,000	603,000	292,000	603,000	
	教育充実費	140,000	74,000	140,000	74,000	140,000	
	合計(年額)	743,000	366,000	743,000	366,000	743,000	
	分納	第1回	441,500	220,000	441,500	220,000	441,500
		第2回	301,500	146,000	301,500	146,000	301,500
納付期限	分納	第1回	所 定 の 期 日				
		第2回					

(単位:円)

種 別		学 部		国際文化学部		情報科学部	
		工学部	芸術学部	国際文化学科	臨床心理学科		
				国際文化学科	日本文化学科		
修学費	授業料	780,000	864,000	603,000	603,000	780,000	
	教育充実費	344,250	392,000	140,000	160,000	384,250	
	合計(年額)	1,124,250	1,256,000	743,000	763,000	1,164,250	
	分納	第1回	734,250	824,000	441,500	461,500	774,250
		第2回	390,000	432,000	301,500	301,500	390,000
納付期限	分納	第1回	所 定 の 期 日				
		第2回					

(注) 第1回分納額には、教育充実費を含む。